学習評価を生かした
授業改善，授業づくりのための
ハンドブック

［ 中学校 ］

平成 24 年 3 月

島根県教育委員会

は　じ　め　に

平成 20 年 3 月に告示された新しい中学校学習指導要領が，平成 24 年 4 月から全面実施となります。各中学校においては校長のリーダーシップのもと，学校や地域の特色を生かしながら，教育課程の編成，年間指導計画・評価規準の作成などについて新学習指導要領の趣旨を踏まえた整備が進められていることと思います。

今回の学習指導要領の改訂はこれまでの理念を継承し，教育基本法改正等を踏まえ「生きる力」をより一層育むことを目指しています。また，学力の要素を基礎的・基本的な知識・技能，思考力・判断力・表現力その他の能力，主体的に取り組む態度とし，それぞれを習得させ，育み，養うことを求めています。

改訂の大きな特色である「言語活動の充実」については，知識基盤社会といわれる時代の要請や，思考力・判断力・表現力等の育成の必要性から求められているものであり，教科等を貫く重要な改善の視点といえます。

全国学力・学習状況調査及び県学力調査の結果を分析すると，本県の中学生の学力においては，教科の達成率の向上や学習・生活習慣に改善の傾向が見られますが，思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことや，書く力が十分でないこと等さらに改善すべき課題もあります。これらの課題を解決する方法の一つとして，日頃から「言語活動の充実」を踏まえた授業を展開することはとても有効であると考えます。また，子どもたちの言語に関する能力を育成することは，島根県の教育の基盤と位置付ける感性を育む観点からも重要なことです。

さらに，新しい学習指導要領に示された学力を育成するためには，学習評価を通じて学習指導の在り方を見直すこと，個に応じた指導の充実を図ること，学校における教育活動を組織として改善すること等が大切であることから，学習評価の工夫・改善が求められます。

本ハンドブックは，「言語活動の充実」及び「学習評価」についての基礎的な考え方，各教科等の指導及び学習評価の在り方の理論と実践について参考となる内容を掲載しています。特に各教科等の単元（題材）の展開例では，「指導のポイント」及び「評価のポイント」を具体的に示し，学習指導案の作成及び授業実践の際の参考となるようにしています。

本ハンドブックを活用し，生徒一人一人の課題をその背景も含めて的確に把握するとともに，「生きる力」をしっかりと身に付けることができるような授業づくりに努めていただきたいと願っています。

平成 24 年 3 月

島根県教育庁義務教育課長
矢 野　英 明

目　次

・　はじめに
1　これからの学習指導，学習評価…… 1
2　言語活動の在り方…… 3
3　学習評価の意義・目的…… 7
4　観点別学習状況の評価の在り方…… 8
1）新学習指導要領を踏まえた観点の設定
2）学校教育法及び中学校学習指導要領で示された学力の３つの要素と評価の観点との関係
3）「関心・意欲・態度」
4）「思考・判断・表現」
5）「技能」
6）「知識・理解」
5　学習評価を生かした指導の工夫…… 10
1）「指導と評価の計画」の立案
2）学習評価を生かした具体的な指導の手だて
3）生徒，保護者等による授業評価等を生かした授業改善
6　学習評価の流れ…… 12
7　評価規準作成の具体的な手だて…… 13
8　各教科等における指導と評価…… 15
・　国語 …… 16
・　社会 …… 20
・　数学 …… 24
・　理科 …… 28
・　音楽 …… 32
・　美術 …… 38
・　保健体育 …… 42
・　技術・家庭（技術分野）…… 48
・　技術・家庭（家庭分野）…… 52
・　外国語 …… 56
・　道徳 …… 60
・　総合的な学習の時間 …… 64
・　特別活動 …… 68
9　指導要録の改善…… 72
1）評定
2）総合的な学習の時間
3）特別活動
4）行動の記録
5）総合所見及び指導上参考となる諸事項
10　効果的・効率的な学習評価…… 73
1）ポートフォリオによる評価
2）パフォーマンス評価
11　参考資料ホームページアドレス…… 74

1 これからの学習指導，学習評価

平成 19 年に改正された学校教育法及び平成 20 年に告示された新しい学習指導要領により，
学力の重要な 3 つの要素が明確に示されました。

○ **学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号） 一部改正（平成 19 年 6 月公布）**
第 30 条（略）

②前項の場合においては，生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。　（第 49 条で中学校に準用する）

○ **中学校学習指導要領（平成 20 年文部科学省告示　第 28 号）**
第 1 章　総則　　第 1　教育課程編成の一般方針

1（略）
　学校の教育活動を進めるに当たっては，各学校において，生徒に生きる力をはぐくむことを目指し，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際，生徒の発達の段階を考慮して，生徒の言語活動を充実するとともに，家庭との連携を図りながら，生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

2（略）

3（略）

学力の重要な 3 つの要素

- 基礎的・基本的な知識・技能
- 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
- 主体的に学習に取り組む態度

島根県においては，島根県学力調査及び全国学力・学習状況調査から，

思考力・判断力・表現力等の育成に課題がある

ことが明らかになっています。今後，島根県においては，思考力・判断力・表現力等を確実に育むために，各教科等の指導の中で，

基礎的・基本的な知識・技能を習得させる

とともに，観察・実験，レポートの作成や推敲，論述，発表・討論といった

知識・技能を活用させる

学習活動をそれぞれの教科等で充実させる必要があります。そしてこれらの学習活動の基盤となるのは言語に関する能力であり，各学校においては，国語科のみならずすべての教科等で

言語活動を充実させる

ことが求められています。

言語活動の充実を図る際は，新しく設定された学習評価の観点「思考・判断・表現」等を中心に適切な評価規準を設け，指導の充実を図ることが重要です。

2 言語活動の在り方

言語の役割を踏まえた言語活動の充実

言語は**知的活動（論理や思考）の基盤**であるとともに，**コミュニケーションや感性・情緒の基盤**であるとされています。このため，各教科等において言語活動を充実する際には，このような言語の果たす役割を踏まえた指導を行うことが大切です。また，言語活動が単に活動することに終始することのないよう，各教科等のねらいを言語活動を通じて実現するために意図的，計画的に指導することが重要です。

言語の役割を踏まえた言語活動の指導の在り方と留意点について整理すると，次のようになります。

（1）知的活動（論理や思考）に関すること

ア　事実等を正確に理解し，他者に的確に分かりやすく伝えること

⇒　生徒が理解するに当たって，視点をもたせるようにする。
⇒　設定した視点に応じて対象から情報を適切に取り出すようにする。
⇒　自分や伝える相手の目的や意図をとらえるようにする。
⇒　目的や意図に応じて事実等を整理できるようにする。
⇒　構成や表現を工夫しながら伝えられるようにする。

イ　事実等を解釈し説明するとともに，互いの考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること

⇒　事実等を知識や経験と結び付けて解釈し，自分の考えをもたせるようにする。
⇒　自分の考えについて，探究的態度をもって意見と根拠，原因と結果などの関係を意識し，説明する際にはそれを明確に示す。
⇒　自分の考えと他者の考えの違いをとらえ，それらの妥当性や信頼性を吟味したり，異なる視点から検討したりして振り返るようにする。
⇒　考えを伝え合う中でいろいろな考えや意見があることに気付くことができるようにする。
⇒　考えの根拠や前提条件に違いや特徴があることに気付くことができるようにする。
⇒　それぞれの考えの異同を整理して,更に自分の考えや集団の考えを発展させることができるようにする。

（2）コミュニケーションや感性・情緒に関すること

【コミュニケーション】

⇒　語彙を豊かにし，表現力を育む。
⇒　自分の思いや考えを伝えようとするとともに，相手の思いや考えを理解し尊重できるようにする。
⇒　自分の思いや考えの違いを整理しつつ，相手の話を聞き，受け止めることができるようにする。
⇒　相手の話に対して，状況に応じて的確に反応できるようにする。

【感性・情緒】

⇒　様々な事象に触れさせたり体験させるようにする。
⇒　感性・情緒に関わる言葉を理解するようにする。
⇒　事象や体験等について,より豊かな表現,より論理的で的確な表現を通して互いに交流するようにする。

思考力・判断力・表現力等を育むため学習活動（例）

中央教育審議会答申によると，思考力・判断力・表現力等を育むには，例えば以下の①～⑥のような学習活動が重要であるとしています。各教科において，記録，要約，説明，論述といった学習活動に取り組む必要があります。

①　体験から感じ取ったことを表現する

（例）・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌，絵，身体などを用いて表現する。

②　事実を正確に理解し伝達する

（例）・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

③　概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする

（例）・需要，供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす。
・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する。

④　情報を分析・評価し，論述する

（例）・学習や生活上の課題について，事柄を比較する，分類する，関連付けるなど考えるための技法を活用し，課題を整理する。
・文章や資料を読んだうえで，自分の知識や経験に照らし合わせて，自分なりの考えをまとめてA4・1枚（1000字程度）といった所与の条件の中で表現する。
・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり，これらを用いて分かりやすく表現したりする。
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ，分析したことを論述する。

⑤　課題について，構想を立て実践し，評価・改善する

（例）・理科の調査研究において，仮説を立てて，観察・実験を行い，その結果を整理し，考察し，まとめ，表現したり改善したりする。
・芸術表現やものづくり等において，構想を練り，創作活動を行い，その結果を評価し，工夫・改善する。

⑥　互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる

（例）・予想や仮説の検証方法を考察する場面で，予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う。
・将来の予測に関する問題などにおいて，問答やディベートの形式を用いて議論を深め，より高次の解決策に至る経験をさせる。

学習評価についての基礎クイズにチャレンジしてみましょう !!

Q1 なぜ学習評価を行うのでしょうか。

Q2 学習指導要領改訂に伴う学習評価の改善に関する3つの基本的な考え方を説明してください。

Q3 新しい学習評価における4つの観点をあげてください。

Q4 これまでの「思考・判断」が新しく「思考・判断・表現」に変更された趣旨は何ですか。

Q5 「評価規準」とは何ですか。

Q6 なぜ「評価規準」を設定するのでしょうか。

Q7 各学校において学習評価をどう進めたらよいのでしょうか。また，進めるにあたっての留意点は何でしょうか。

A1

学習評価を進めることで
① **学習指導の在り方**を見直す
② **個に応じた指導**の充実を図る
③ 学校における教育活動を**組織として改善**する
ことができるからです。

A2

① これまでの**目標に準拠した学習評価（いわゆる絶対評価）**を引き続き着実に実施すること。
② **新学習指導要領の趣旨や改善事項等**を適切に**反映**すること。
③ **学校や設置者の創意工夫**を一層生かすこと。

A3

評価の観点は
「関心・意欲・態度」，「思考・判断・表現」，「技能」，「知識・理解」の４つです。

A4

「思考・判断・表現」の観点のうち「表現」については，**基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価する**ことを意味しています。

つまり「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，**思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて生徒がどのように表出しているか**を内容としています。

A5

学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するためのよりどころです。学習指導に当たっては各教科の目標だけでなく，領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要があります。そして，学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現された状態を具体的に想定しておく必要があります。これが評価規準です。

A6

① 生徒の学習状況を判断する際の目安が明らかになるからです。
② 指導と評価を着実に実施することにつながるからです。

A7

① 学習評価をその後の**学習指導の改善**に生かすことです。
② 学校における**教育活動全体の改善**に結びつけることです。その際，学習指導の過程や学習の結果を継続的，総合的に把握することが必要です。そのためには，
ア 評価規準を適切に設定する
イ 評価方法の工夫改善を進める
ウ 評価結果について教師同士で検討する
エ 実践事例を着実に継承していく
オ 授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図る等，校長のリーダーシップの下で，学校として，組織的・計画的に取り組む
ことが必要です。

3 学習評価の意義・目的

学習評価には

○　**生徒の学習状況を検証し，結果の面から教育水準の維持向上を保障する**

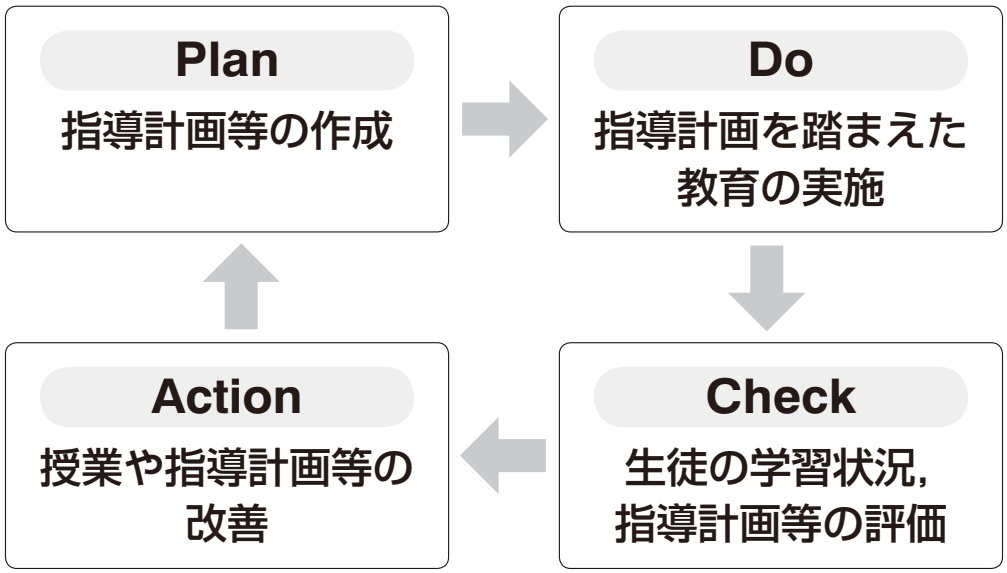
機能があり，
学習評価を通じて，

○　学習指導の在り方を見直すこと
○　個に応じた指導の充実を図ること
○　学校における教育活動を組織として改善すること

が重要です。

これがいわゆる**「指導と評価の一体化」**です。

そして，**学習指導と学習評価の PDCA サイクル**は，日常の授業，単元等の指導，学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返されながら展開することが必要です。



【生徒】にとっては

自らの学習状況に気付き，その後の学習や発達・成長が促される契機となります。

【保護者】にとっては

評価に先生の主観が入っているのではないかなどの不安を解消するとともに，学校における学習評価の在り方や生徒の学習状況について把握する契機となります。

4 観点別学習状況の評価の在り方

1）新学習指導要領を踏まえた観点の設定

○　各教科の内容等に即して思考・判断したことについて，その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」が設定されました。

○　従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため，「技能・表現」は「技能」に改められています。

新しい４つの観点は次の通りです。

「関心・意欲・態度」	「思考・判断・表現」
「技能」	「知識・理解」

2）学校教育法及び中学校学習指導要領で示された学力の３つの要素と評価の観点との関係

基礎的・基本的な知識・技能

➡**「技能」**及び**「知識・理解」**で評価します。

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

➡**「思考・判断・表現」**で評価します。

主体的に学習に取り組む態度

➡**「関心・意欲・態度」**で評価します。

3）「関心・意欲・態度」

各教科が対象としている学習内容に関心をもち，自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価します。

○　全国学力･学習状況調査等により我が国の生徒の学習意欲に課題があることが指摘されています。本県の生徒も島根県学力調査等から学習意欲に課題があると考えられます。

○　他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係しています。したがって「関心・意欲・態度」について学習評価を行い，生徒が意欲的に取り組めるような授業を構成したり，継続的な授業改善を行ったりすることが重要です。

○　授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意します。評価方法及び評価場面の例として，授業や面談における発言や行動等，ワークシートやレポートの作成，発表等があります。

○　教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことが重要です。

4）「思考・判断・表現」

それぞれの教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を生徒が身に付けているかどうかを評価します。

○　新しい学習指導要領において，思考力・判断力・表現力等を育成するため，基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに，言語活動の充実が求められたことから，新たに設定されました。
○　言語活動を中心とした表現に係る活動や生徒の作品等と一体的に行うことを明確化しています。
○　自ら取り組む課題を多面的に考察，観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を見いだすなどの基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容等に即して思考・判断したことを，説明，論述，討論といった言語活動等を通じて評価します。
○　思考・判断の結果だけではなく，その過程を含めて評価します。

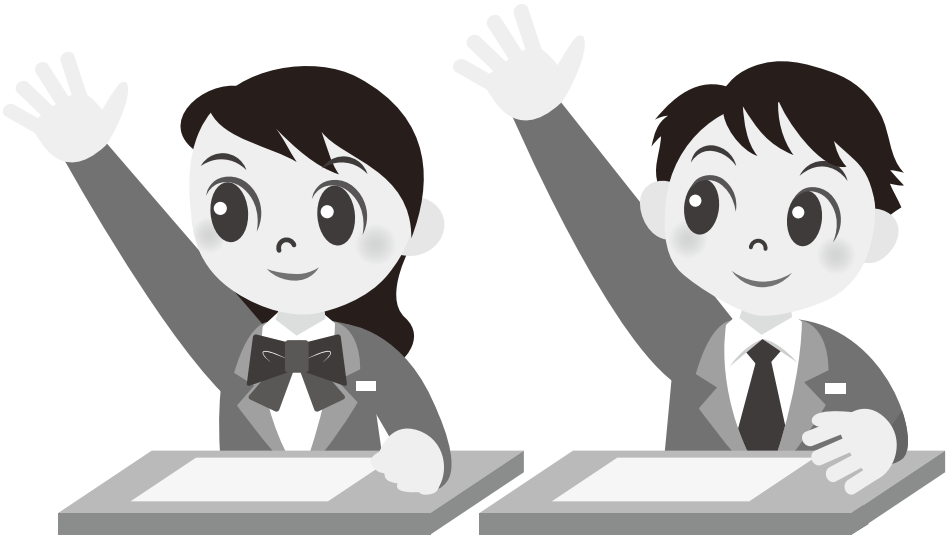
5）「技能」

各教科において習得すべき技能を生徒が身に付けているかどうかを評価します。

○　「思考・判断・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため，従来の「技能・表現」を「技能」に改めています。
○　教科によって違いはあるものの，基本的には，これまでの「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価します。
＜例＞
［数学］　式やグラフに表すこと
［理科］　観察・実験の過程や結果を的確に記録し整理すること

6）「知識・理解」

各教科において習得すべき知識や重要な概念等を生徒が理解しているかどうかを評価します。



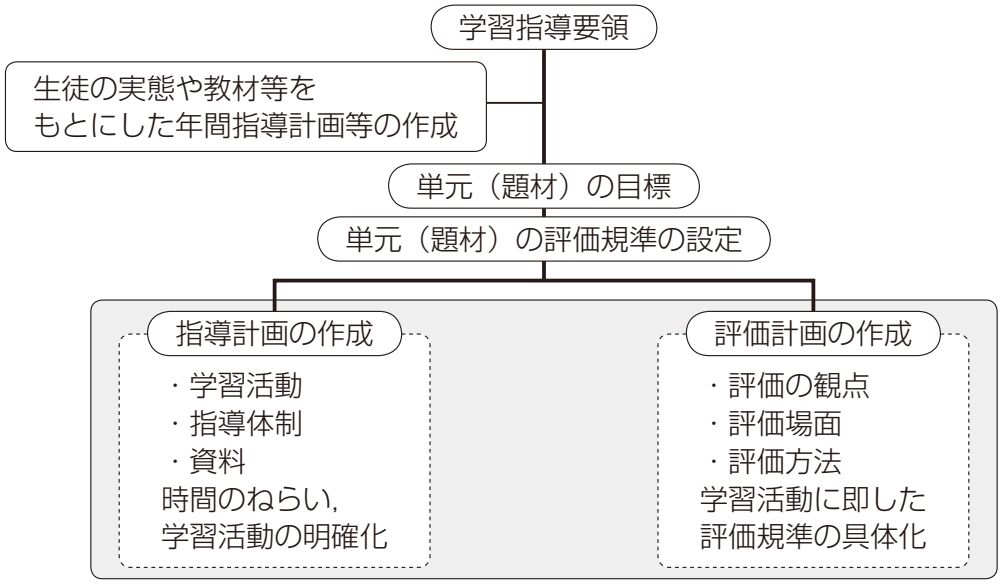
5 学習評価を生かした指導の工夫

1）「指導と評価の計画」の立案

学習評価を生かした指導を行う際に大切なことは，「指導と評価の計画」に基づき，計画的・継続的に個に応じたきめ細かい指導を行うことです。

① 学習指導要領をもとに，生徒の実態，教材等を勘案して**年間指導計画等**を作成する。
② **単元（題材）の目標**を設定する。
③ **単元（題材）の評価規準**を設定する。
④ 学習活動，指導体制，資料等を検討し，**単元の指導計画**を作成する。
⑤ 学習活動に即して，**具体的な評価規準**を作成する。
⑥ ④，⑤をもとに，指導と評価の計画を作成する。

「指導と評価の計画」立案の流れ



※ 言語活動の充実を踏まえた指導計画の作成

言語活動を充実することについて，校内のすべての教職員がその必要性を十分に理解し，言語活動を各教科等の指導計画に位置付け，授業の展開や指導を改善することが大切です。

さらに，言語活動の充実を図った教科等の授業を実施する際は，どのような生徒の姿を目指すのか，イメージを共有することが大切です。例えば，「自分の考えをもち，自分のことばで表現することができる子ども」というような生徒の姿を設定することで，指導の目的が共通理解され，一層効果が高まります。イメージの共有ができたら，担当している学年や教科等においても，指導後の生徒の姿を設定してみましょう。

例） 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わうことができる。（音楽）

2）学習評価を生かした具体的な指導の手だて

毎時間，学習状況を的確に把握し，すべての生徒を「おおむね満足できる」状況（**B**）にするように指導します。

授業前
① 本時の学習終了後の生徒の姿（「おおむね満足できる」状況（**B**））を想定する。
② 個々の生徒が伸びる手だてを設定する。特に「努力を要する」状況（**C**）と判断する生徒への具体的な支援の設定が必要である。

本　時
③ 授業
④ 手だてによる，生徒の変容の様子の記録する。

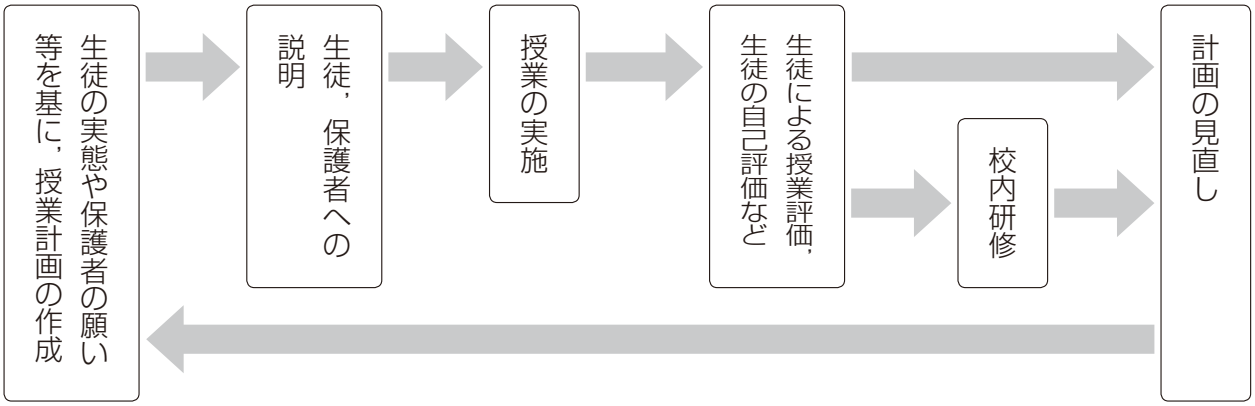
授業後
⑤ 記録やワークシート等の整理と本時の生徒の実態をもとにした次時以降の学習過程や個に応じた指導の手だてを再考する。

3）生徒，保護者等による授業評価等を生かした授業改善

授業改善を進めるにあたっては，教師が自ら授業を振り返るだけでなく，生徒や保護者等が授業をどうとらえているかを知り，それを授業改善に役立てるために，**生徒，保護者等による授業評価や生徒による自己評価**の活用が有効です。

＜生徒の自己評価の項目例＞
○　この授業でどんなことに興味をもちましたか。［関心・意欲・態度］
○　積極的に授業に参加したり自ら課題を設定したりして学習できましたか。［関心・意欲・態度］
○　理由をつけて自分の考えを述べることができましたか。［思考・判断・表現］
○　○○の内容について理解できましたか。［知識・理解］

＜生徒による授業評価の項目例＞
○　○○の内容の授業はわかりやすかったですか。
○　板書は課題やまとめが整理されていましたか。
○　興味・関心をもてるように授業が工夫されていましたか。
○　授業についての感想を自由に書いてください。



6 学習評価の流れ

信頼性のある学習評価を進めるための準備

○学習指導要領の目標，指導要録の評価の観点の趣旨を踏まえて，各教科の単元（題材）ごとの評価規準と，指導と評価の計画を作成する。

↓

生徒，保護者への説明

○学校における学習指導及び学習評価の方針について生徒・保護者に対して説明を行う。

↓

授業ごとの指導と評価

○個々の生徒の実態に応じた指導を工夫する。
○生徒の学習状況は補助簿等を活用し，記録する。

↓

単元（題材）ごとの評価の総括

○評価資料を基にして観点ごとに評価を総括する。

↓

学期末及び学年末の評価の総括

○単元ごとの評価の結果を基にして，学期末及び学年末の観点ごとの評価の総括を行う。
○総括の仕方について学校内で共通理解を図る。

↓

年間の評価の総括

○各教科の評定を含む評価を行う。
○４つの観点からバランスよく評価する。

評価規準・評価方法等について見直しを図る

7 評価規準作成の具体的な手だて

各教科の目標，学年または分野の目標及び内容の把握

中学校学習指導要領，各教科等の学習指導要領解説を参考にする。

各教科の「評価の観点及びその趣旨」並びに「学年別の評価の観点の趣旨」の把握

平成 22 年 5 月 11 日付け 22 文科初第 1 号「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（通知）を参考にする。

※以下，“改善通知”として示す

※「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（平成 23 年 7 月　国立教育政策研究所）の参考資料部分に転載

設置者が作成した各教科等の「評価の観点及びその趣旨」の把握

それぞれを参考にして

自校の指導計画に基づいて，**単元（題材）ごとの観点別の評価規準を作成**する。

単元（題材）の指導計画に基づき,**各授業における具体的な評価規準を作成**する。

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（平成 23 年 7 月　国立教育政策研究所）を参考にして

（1）第 2 編「評価規準に盛り込むべき事項等」を参考に**各教科の領域，内容項目ごとのねらい**の把握と**評価規準の設定例**の確認をする。

※ **「内容のまとまり」**

→ 学習指導要領に示す領域や内容項目等をそのまとまりごとに整理されたもの

※ **「評価規準に盛り込むべき事項」**

→ 学習指導要領の各教科の目標，学年（または分野）の目標及び内容を基に，改善通知で示されている各教科の評価の観点及びその趣旨，学年（または分野）別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成されたもの

※ **「評価規準の設定例」**

→ 原則として，「評価規準に盛り込むべき事項」を基に，当該部分の学習指導要領解説の記述をもとに作成されたものであり，評価の観点別に**「おおむね満足できる」状況を示す**もの

（2）第 3 編「評価に関する事例」を参考に**各単元（題材）の評価に関する事例**の確認をする。

→ 単元（題材）の評価に関する事例に沿って，評価規準の設定を含めた指導と評価の計画，具体的な評価方法，評価対象とした具体的な生徒の学習状況等について示したもの

8 各教科等における指導と評価

○　各教科等の事例は，新しい学習指導要領の趣旨等を踏まえたものであり，今後の指導の参考にしていただくために作成したものです。

○　本事例における指導案の様式（「単元指導計画及び評価計画」,「本時の展開」等）は，一つの例です。指導案を作成する際は，事例の様式を参考に各学校の実態や研究のねらい等に応じて，適切に様式を設定して下さい。

○　指導のポイント 指 には，具体的な指導の際の配慮事項等を示しています。

○　評価のポイント 評 には，評価の観点及び評価規準に基づく具体的な評価方法等を示しています。

国語

1 目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし，国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する認識を深め，国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ，適切に話したり聞いたり話し合ったりして，自分の考えを豊かにしている。	相手や目的，意図に応じ，筋道を立てて文章を書いて，自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ，様々な文章を読んだり読書に親しんだりして，自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり,言葉の特徴やきまり,漢字などについて理解し使ったりするとともに,文字を正しく整えて速く書いている。

※ 「話す･聞く能力」「書く能力」「読む能力」は，学習指導要領の内容のまとまりに合わせ，基礎的･基本的な知識･技能と「思考･判断･表現」とを合わせて評価する観点として位置付けられている。そのうえで，「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」とともに，5 観点として設定されている。

3 改訂のポイント

言語の教育としての立場を一層重視し，国語に対する関心を高め，国語を尊重する態度を育てるとともに，実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること，我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置く。

○ 小学校で身に付けた技能に加え，社会生活に必要とされる発表，討論，解説，論述，鑑賞などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう継続的に指導することとし，中学校段階にふさわしい文章や資料等を取り上げ，自ら課題を設定し，基礎的・基本的な知識・技能を活用し，他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。

○ 国語の能力を育成するためには，具体的な言語活動を通して指導事項を指導することが大切である。その際，生徒が自ら学び，課題を解決していくための学習過程を明確化し，単元を貫く言語活動を位置付けることが必要である。

○ 「話すこと・聞くこと」においては，話すことと聞くことの指導事項が分けて設定されていることにより，特に聞くことの内容が一層明確になっていることを踏まえ，能動的に聞く力を育成するための指導を行う。

○「書くこと」においては，「課題設定や取材→構成→記述→推敲→交流」といった一連の学習過程を重視する。なお，学習過程のいずれの段階においても，生徒同士の学び合いを取り入れることが大切である。

○「読むこと」においては，「語句の意味の理解→文章の解釈→自分の考えの形成→読書と情報活用」といった文章を読解する過程を意識して指導事項が配列されていることを踏まえ，場面ごと，段落ごとに平板に読み取らせることに偏った指導を改善する。

○〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「ア　伝統的な言語文化に関する事項」については，小学校での指導を踏まえ，各領域との関連を図った指導や伝統的な言語文化に関する事項のみを取り上げた指導を通して，古典を素材とした多様な言語活動が行えるよう配慮する。

○ 読書の指導については，各領域や他教科等の学習との関連を図りながら，言語活動例を具体化し，授業における読書活動を一層充実させる。また，学校図書館を計画的に活用し，学習に関係する資料や情報を収集したり整理したりすることができるよう指導する。

○ 漢字に関する指導では，小学校学習指導要領における学年別漢字配当表に示している漢字を，第 2 学年では「書き，使うこと」，第 3 学年では「使い慣れること」ができるよう指導する。

○ 硬筆及び毛筆を用いた書写の指導については，配当時間に基づき各学年で行うことが必要である。

《示されている配当単位時間の目安》

学年 領域等	小学校 第 5・6 学年	中学校	
		第 1・2 学年	第 3 学年
	155	140	105
「A 話すこと・聞くこと」	25	15 ～ 25	10 ～ 20
「B 書くこと」	55	30 ～ 40	20 ～ 30
書写	30	20	10

4 評価規準と展開例

1）単元名

図表をつかって報告しよう　【第 2 学年】
～資料を効果的に活用してわかりやすく話す～

どの単元においても，ねらいには【国語への関心・意欲・態度】及び【言語についての知識・理解・技能】の観点をあげる。【話す・聞く能力】【書く能力】【読む能力】の 3 観点については重点的に取り上げる観点のみとし，すべてをあげる必要はない。

2）単元のねらい

【国語への関心・意欲・態度】は「～しようとする」，その他は「～できる」と記述する。

・調べたことについて聞き手が理解しやすいように工夫して説明しようとする。【国語への関心･意欲･態度】
・社会生活の中から話題を決め,報告するための材料を多様な方法で収集･整理してまとめることができる。【話す･聞く能力】
・わかりやすく説明するために要点を示したり,図表を活用したりして報告することができる。【話す･聞く能力】
・学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書くことができる。【言語についての知識･理解･技能】

3）単元の評価規準

学習評価は，評価規準にしたがって行う。評価規準で取り上げなかった観点や内容については必要に応じて指導は行うが，評価の対象とはしない。学習評価の対象はあくまでも評価規準で取り上げた内容についてである。

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
調べたことについて聞き手が理解しやすいように工夫して報告しようとしている。	①社会生活の中や，マスコミ等で取り上げられている話題の中からマッピングの手法を使ってテーマを見つけ，情報カードを使って報告するための材料を収集･整理してまとめている。(ア) ②わかりやすく説明するためにフリップを用いて要点を明確にしたり，図表を効果的に活用したりして報告している。(ウ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。((1) ウ (イ))

4）単元の指導計画と評価計画（全８時間）

評 学習評価は全８時間の中で計画的に行う。「単元の評価規準」に記載した３観点の評価を，１単位時間の中ですべて行わなくてよい。

次	時	目　　標	主な学習活動	評価 国語	評価 話す	評価 言語	評価規準（評価方法）
1次	1	調べて報告する内容を決める。	①教師が示すフリップを用いた発表の例を見て，図表を効果的に用いた発表のイメージをもつ。 ②最近気になっていることや知りたい事柄をできるだけたくさん挙げる。 ③自分が報告する内容について考えた途中経過をもとに，グループで話し合う。 ④調べて報告する内容を絞り込む。	○	○		【国】発想を広げながらマッピングシートにたくさんの事柄を書き出している。（シート） 【話】グループでの話し合いにより発想を広げている。（観察）
	2	報告する内容の概要を調べ，使う図表を決める。	①報告しようとする内容について百科事典等で概要を調べ，大切だと思う部分について，情報カードにまとめる。 ②発表にどのような図表が使えるかについて考え，探した図表については付せんを貼る。		○		【話】適切な言葉をとらえて情報カードにメモしている。（カード） 【話】報告するために適切な図表を年鑑やデータ集から探し出そうとしている。（観察）
2次	3 4 本時	報告する内容について書かれている情報を図書資料等から探し，要点をカードに書き込む。	①用意された図書資料等から該当の内容が書かれている場所を探して付せんを貼る。 ②付せんを付けた箇所について，情報カードに大切な部分を書き出す。 ③５枚程度の発表用フリップにまとめるために，カードを５つ程度に分類する。		○		【話】情報カードを使って必要な情報を取り出したり，分類したりしている。（カード）
	5 6	情報カードをもとにして発表用フリップをまとめる。	①前時までの情報カードや資料をもとに，５枚程度のフリップを作成する。		○	○	【言】学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。（フリップ） 【話】図表を用いた説明の効果などを考え，情報カードの内容をわかりやすく整理して発表用のフリップを作成している。（フリップ）

指 報告しようとする内容についてマッピング（※１）により発想を広げさせる。

指 生徒が調べようとする内容についてはクラス全員分の一覧表を作成し，学校司書等と協力をして参考となる資料を集める。

評 マッピングシートについては授業後に回収し，調べるための資料が準備できるか，調べやすい内容か等の観点で確認したうえで生徒に返す。

指 ある程度個人で考えたところで，途中経過をもとにグループで話し合わせ，さらに発想を広げさせる。

指 調べ学習では最初に百科事典等の参考図書にあたることを指導する。（※２）

指 実際に調べ始めてみると，情報が不足するテーマであることも考えられる。その際にはマッピングシートに返って内容の設定をし直すことも必要である。

評 「話すこと・聞くこと」の学習指導であれば，情報カードに書く活動があっても【書く能力】の観点からは評価しない。

指 必要に応じて年鑑（※３）やデータ集などを示して使える図表の例を示す。

指 著者の言葉をそのまま使う場合には「　」で引用することを伝える。

指 情報カードに書き込むための要約の仕方については，第１学年「読むこと」の指導事項イ「目的や必要に応じて要約する」学習で学んだことを活用させる。また日常の学習活動でも必要に応じて取り上げ要約に慣れさせる。（※４）

指 著作権については情報活用のための知識として指導しておく。

3次	7 8	フリップを用いてグループ内で発表し，感想を交流する。	①グループ内で順番に発表する。 ②発表後に評価カードに評価を記入し，グループ内で感想を交流する。	○	○		【国】フリップに書いた内容を理解し，発表しようとしている。（評価カード） 【話】図表を効果的に活用してわかりやすく発表している。（観察・記録）

指 発表時には発表原稿を作らず，フリップだけをみて発表するように指導する。その際，第１学年の「話すこと・聞くこと」の指導事項イ「相手の反応を踏まえながら話す」で学んだことを活用させる。

指 説得力をもった発表についてはクラス全体の中で発表することも考えられる。

5）本時の学習（第２次　3・4 時間目）

本時のねらいについては，単元の指導計画に基づいて設定する。１単位時間の中に常にすべての観点をあげる必要はない。

① 本時のねらい

・わかりやすく報告するための情報を様々な資料から集めて整理することができる。

【話す・聞く能力】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価（評価方法）
1　本時の学習のめあてを確認する。 必要な情報を探して情報カードにまとめ，分類しよう。 2　図書資料等から必要な情報を探して付せんを付けた上で，情報カードにメモをする。 3　使おうとする図表からわかる事柄について情報カードにまとめる。 4　書いたカードを５枚程度のフリップにまとめることができるように分類する。	○あらかじめ準備した資料の概要について説明する。 ○必要な部分が見つからない生徒については，目次や索引を使うように指導する。 ○カードへの書込の段階では資料の丸写しにならないよう，キーワードやキーセンテンスを書き込むように指導する。 ○→や傍線，文字囲などの記号等も使ってメモをするよう指導する。 ○何を表した図表なのか，図表から何がわかるかをカードに書いているかどうか確認する。 ○カードに書かれた内容に合わせ，５つ程度のまとまりに分けられているかどうかを確認する。	☆適切に要約しながら情報カードを書き，それらを分類している。【話す・聞く能力】（カード）

指 目次や索引の使い方については，小学校での学習を踏まえ，日常の学習活動の中で必要に応じて指導しておく。

指 カードにメモを書き込むときに写し書きに終始していないかを確認し，キーワードが見つけにくい生徒については個別に指導する。

指 カードに書く情報は１枚につき１項目として，できるだけたくさんのカードを書いていくように指導する。（※５）

評 本時の前後でカードを点検し，生徒がフリップをまとめることができるような学習過程にあるかを確認する。

指 内容のまとまりごとに分けることができない生徒には，カードを使って分け方の例を示す。

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
話す・聞く能力	報告するために大切なことが何かを意識して情報を収集し，内容に合わせて情報カードを分類している。	報告するための材料として図書資料等の言葉や文を情報カードに書き，分類している。	報告したい事柄にもとづいて，図書資料等から言葉や文を引き出し，メモができるようにする。

注　※１～５については，県教委作成の学校図書館活用教育研修 DVD「学びを支え　心をはぐくむ　しまねの学校図書館」にスキル学習としての授業の展開例が収めてあるので参照のこと。

社会

1 目標

広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解し，その知識を身に付けている。

3 改訂のポイント

○　社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し，公正に判断する能力と態度を養い，社会的な見方や考え方を成長させる。

○　社会的事象に関する基礎的・基本的な知識，概念や技能を確実に習得させ，それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から

・習得すべき知識，概念の明確化を図る。

・コンピュータなども活用しながら，地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取らせる。

・社会的事象の意味，意義を解釈させる。

・社会的事象の特色や事象間の関連を説明させる。

・自分の考えを論述させる。

○　我が国の国土や歴史に対する愛情を育み，日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるための資質や能力を育成する。

○　持続可能な社会の実現を目指すなど，公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成する。

各分野の改訂の主な要点

〔地理的分野〕

・世界に関する地理的認識の重視

・動態地誌的な学習による国土認識の充実

指 各州の基礎的・基本的な知識を静態地誌的（地形・気候・人口など項目ごとに学習する）に扱って大観したうえで，教師によって主題を設定し，その追究を通して地域的特色を理解させる。

指 取り上げた地域の特色ある事象と他の事象を有機的に関連付けて考察する。羅列的，並列的な知識注入に陥り，静態地誌的な扱いにならないようにする。

指 時代を大観し表現する活動を工夫し，各時代の特色をとらえさせるようにする。

〔歴史的分野〕

・「我が国の歴史の大きな流れ」を理解する学習の一層の重視

・歴史について考察する力や説明する力の育成

指 内容の中項目に「○○などを通して，ＡがＢであったことを理解させる」と記述されているのは「記憶」だけでなく，「自分の言葉で表現できるように」する学習活動を重視するという意味である。

指 時代の特色や時代の転換について考えたり表現したりする学習を行う。

〔公民的分野〕

・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習の重視

・課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの重視

指 内容（1）イで習得した，対立と合意，効率と公正などの見方や考え方を以後の学習に生かす。

指 持続可能な社会を形成するという観点から，課題を探究し自分の考えをまとめさせる内容（4）イが設けられた。公民的分野に加え，地理的分野，歴史的分野を含めた中学校社会科のまとめとして適切かつ十分な時間数を配当する。

4 評価規準と展開例

指 日本を７つの地域に分け，それぞれの地域について考察する中項目。指導の順序や配当時間は固定的にする必要はない。
本事例は中国・四国地方を日本の諸地域の最後の単元として設定し，他地域との結び付きを中核とした考察を基にして地域的特色をとらえる学習を設定した。

指 考察の仕方は次の７つ
（ア）自然環境を中核とした考察
（イ）歴史的背景を中核とした考察
（ウ）産業を中核とした考察
（エ）環境問題や環境保全を中核とした考察
（オ）人口や都市・村落を中核とした考察
（カ）生活・文化を中核とした考察
（キ）他地域との結び付きを中核とした考察

1）単元名　日本の諸地域～中国・四国地方～

2）単元のねらい

・他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に，中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め，意欲的に追究し，とらえようとする。【社会的事象への関心・意欲・態度】

・中国・四国地方の地域的特色を地域間の結び付きを中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】

・中国・四国地方の各地の資源が生かされている例について資料を収集し，有用な情報を読み取り図表などにまとめたりすることができる。【資料活用の技能】

・中国・四国地方を他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けることができる。【社会的事象についての知識・理解】

3）単元の評価規準

評 内容（2）ウ「日本の諸地域」の７つの単元それぞれで４観点すべてを評価せず，単元ごとに重視すべき評価の観点を絞り込み，中項目全体で４観点を評価することも考えられる。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に，中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，とらえようとしている。	①中国・四国地方の地域的特色を他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	①中国・四国地方の各地の資源が生かされている例について資料を収集し，読み取っている。 ②読み取った情報から有用な情報を適切に選択し図表などにまとめている。	①中国・四国地方を他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。

4）単元指導計画と評価計画

指 単元によって時間数は流動的で良い。

指 第二次の中核的考察につながるよう，その地域の特色を創り出している重要な内容を扱うことに留意する。

評 1 単位時間に 4 観点すべての評価をしなくても良い。

次程	時間	ねらい・学習活動等	評価の観点 関	思	技	知	評価方法等
第一次（見出す）	1	中国・四国地方のあらましを知る。 ○イメージマップに中国・四国地方はどんなところかかき出す。 ○地図や雨温図を見て中国・四国地方の地形や位置関係，山陰・瀬戸内・南四国の気候の特色をとらえる。 ○地図帳や写真，グラフなどから本州四国連絡橋や高速道路の概略をとらえる。			○		・白地図への記入内容
第二次（追究する）	2	大根島の牡丹生産が全国一になっている要因を追究する。 ○グラフや牡丹農家への聞き取りから牡丹の生産が伸びた要因や牡丹栽培が地域に与えた影響について考察する。		○			・発言 ・ワークシートへの記入内容
	3 4	中国・四国地方で他地域と結び付き地域の資源を生かして変容している地域について調べる。 ○イメージマップの中から選び出したものを班で調査し，まとめる。 （例）石見銀山，水木しげるロード，高知の野菜 今治のタオル　など	○		○		・行動 ・白地図や図表，発表原稿の記入内容
	5	自分とは違った見方・考え方を知り，中国・四国地方への見方・考え方を深める。 ○班ごとに調べてきたことを発表し，中国・四国地方で他地域と結び付いて影響を受けながら変容してきた地域を学級全体で確認する。				○	・ワークシートへの記入内容
第三次（表現する）	6（本時）	中国・四国地方の地域的特色を表現する。 ○各班で中国・四国地方の地域的特色をまとめ発表する。 ○中国･四国地方のキャッチフレーズを作り発表する。		○			・発言 ・キャッチフレーズ

指 地図を有効に活用して事象を説明させたり，自分の解釈を加えて論述させたり，意見交換させたりするなどして，言語活動の充実を図る。

評「思考・判断・表現」は思考・判断したことを言語活動を通して評価し，「技能」は情報を読み取ったりまとめたりした作品等から評価する。

指 中核とした事象に関連したものを，様々な資料を適切に活用してとらえる段階。

指 言語活動を通して表現する段階。

指 地域的特色を表現する際には，分布図や地図を活用したり，論述したり，パンフレットや新聞を作成したりするなど，言語活動を工夫する。

評 事後にノートやペーパーテストで他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に，身に付けた中国・四国地方の地域的特色の知識を確認することも考えられる。

5） 本時の学習

① 本時のねらい

これまでの学習，話し合い，発表からとらえた中国・四国地方の地域的特色をまとめ，キャッチフレーズで表現することができる。 【社会的な思考･判断･表現】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	☆評価　○教材
①前時までの学習をふり返る。	・掛地図や地図帳，前時までの学習で使用した資料などを活用してこれまでの学習が想起できるようにする。	
「中国・四国地方」はどのような地域なのかまとめよう		
②自分の考えを付せんに書いて持ち寄り，班で話し合う。	・考えたり書いたりする個人の活動の時間を確保する。 ・各自の書いた付せんを見ながら，必要に応じて根拠を尋ねたり，さらに詳しく書いたりするよう言葉かけをする。 ・共通性のあるものはまとめて見出しを付け，中国・四国地方の最も顕著な地域的特色を各班でマグネットシートに記述するよう説明する。	○付せん，台紙 ○マグネットシート
③班の意見をまとめ，中国・四国地方の最も顕著な地域的特色を発表する。	・各班の発表を聞いて，共通する意見は近くにまとめて黒板に貼るよう留意する。	
「中国・四国地方」のキャッチフレーズを作ろう		
④キャッチフレーズを通して，中国・四国地方の地域的特色を自分の言葉で語る。	・キャッチフレーズには説明を添えて発表するよう説明する。	☆根拠となる地域的特色をあげながら説明している。 **（思考・判断・表現：発言，ノート）**

指 他地域との結び付きの影響を受けて地域が変容している例等を確認する。

指 事実を確認する課題を設定した。

指 自分の意見を発表する際には，根拠を明らかにさせるようにする。

指 班の意見がまとまった理由についても確認する。

指 事実確認を踏まえ，思考・判断を促す課題を設定した。

指 教師が生徒の発言を関連付けたり，発言内容を解釈して価値付けたりすることが重要。
（例）「～とはこういうことだね。」

指 表現方法や話し合いの場を工夫し，互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させるようにする。

評 付せんの記述や話し合いの様子を評価に生かすことが考えられる。

評 発言から把握できなかった生徒の考えをノートや付せんの記述から読み取り評価する。

評 キャッチフレーズの出来映え（言葉のおもしろさ等）で評価せず，思考・判断した内容を評価する。

③ 本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
社会的な思考・判断・表現	中国・四国地方の地域的特色について，他の 6 地域の特色や世界と比べた日本の地域的特色の学習内容と関連付けてキャッチフレーズを作り説明している。	中国・四国地方の地域的特色について，考察したことや他の班の発表から学んだことを基に，キャッチフレーズを作り説明している。	中国・四国地方の地域的特色に気付くことができるように，自分たちの班の意見や，他の班の意見を参考にするとともに，自分の付せんやノートを見直すよう助言する。

評「十分満足できる」状況と判断するためには，「おおむね満足できる」状況をいくつかの視点で具体的に想定しておく必要がある。そして，その「おおむね満足できる」状況より，例えば，読み取った事実を踏まえたり，既習事項と関連付けたりして考察を加えるなど，質的な高まりや深まりがあると判断できる場合「十分満足できる」状況と評価する。

数学

1 目標

数学的活動を通して，数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め，数学的な表現や処理の仕方を習得し，事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し，それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
趣旨	数学的な事象に関心をもつとともに，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し，数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり，その過程を振り返って考えを深めたりするなど，数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し，知識を身に付けている。

3 改訂のポイント

○　基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため，発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による指導の充実を図る。

○　国際的な通用性，内容の系統性の確保や小・中学校の学習の円滑な接続等の観点から必要な指導の充実を図る。

○　知識・技能を活用したり，学ぶことの意義や有用性を実感できるよう，数量や図形についての知識・理解を実際の場面で活用するなどの「数学的活動」の充実を図る。

○　言語活動の充実の観点から，「数学的活動」において「言葉や数，式，図を用いたりして考え，説明する活動」「目的に応じて表やグラフを選び，活用する活動」などの充実を図る。

☆　言語活動を充実させるための工夫

①何のために言語活動を行うのかを明らかにする。

言語活動はそれ自体が指導の目標になるのではなく，指導の目標，例えば思考力・判断力・表現力等の育成などの実現に資するものでなければならない。

②表現と解釈の双方を一層重視する。

例えば，式で表現することとそれを読み取ることや，証明を書くことと読むことなど，表現と解釈の双方を一層重視する。

③言語活動で取り上げる対象（説明し伝え合おうとする内容）を明確にして指導を行う。

（ア）見い出した事柄や事実を説明するとき

→「○○（前提）は，△△（結論）である。」の形での記述や発言

例：連続する３つの奇数の和は，３の倍数である。

（イ）事柄を調べる方法や手順を説明するとき

→「○○（道具）を用いて，△△（用い方）をする。」の形での記述や発言

例：一次関数の式を求めて，ｘ＝５を代入してｙの値を求める。

（ウ）事柄が成り立つ理由を説明するとき

→「○○（根拠）なので，△△（結論）である。」の形での記述や発言

例：２つの三角形で，１辺とその両端の角がそれぞれ等しいので，合同である。

④数学的な表現方法を身に付けられるようにする。

用語や記号，図，表，式，グラフを適切に用いることで，的確な表現や解釈が一層可能になる。

⑤言語活動の意義を理解できるようにする。

自分の考えを伝えたり，他者の問題解決の方法を理解したりすることが，自らの理解を深めたり広げたりすることや問題解決の方法を工夫することにつながる。このような場面を教師が適切に設定し，言語活動の意義を子どもの主体的な活動を通じて実感させる。

4 評価規準と本時の展開例

1）単元名　第２学年　　平面図形の性質と図形の合同

2）単元の目標

・平行線や角の性質，多角形の内角・外角の和の性質など，基本的な図形の性質に関心をもち，それを確かめようとする。【数学への関心・意欲・態度】

・平行線や角の性質，多角形の内角・外角の和の性質など，基本的な図形の性質を帰納的な考え方や類推的な考え方，演繹的な考え方を用いて予想したり，予想したことを考察したりすることができる。【数学的な見方や考え方】

・平行線と角の性質や多角形の内角・外角の和を利用して角の大きさを求めることができ，証明に用いられることばを適切に用いて，証明の過程を表現することができる。【数学的な技能】

・平行線の性質や多角形の角及び三角形の合同条件や基本的な図形の性質を理解する。【数量や図形などについての知識・理解】

3）単元指導計画と評価計画　（全 16 時間）

		授業時間数	
1　平行と合同	（1）　角と平行線	３時間	10 時間
	（2）　多角形の角	４時間（本時２／４）	
	（3）　三角形の合同	３時間	
2　証明	（1）　証明とそのしくみ	２時間	４時間
	（2）　合同条件を使った証明の進め方	２時間	
3　単元のまとめ	まとめと練習	２時間	２時間

	時	指導内容	評価 関心	考え	技能	知識	主な評価規準〔評価方法〕
(2) 多角形の角	1	・三角形の内角・外角の和		○	○		・平行線の性質を用いて，三角形の内角の和について考えることができる。〔観察・発言・ノート〕 ・三角形の内角，外角の性質を用いて，必要な角の大きさを求めることができる。〔小テスト・ノート〕
	2	・多角形の内角の和の求め方と性質		○			・多角形の内角の和を予想し，それが正しいことを既習事項に帰着させて考え，説明することができる。〔観察・ワークシート・小テスト〕

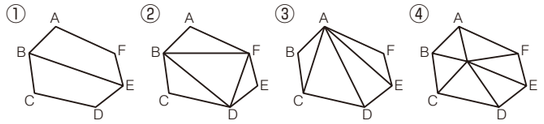
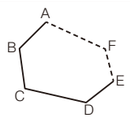
3	・多角形の外角の和の求め方と性質		○			・多角形の外角の和を予想し，それが正しいことを既習事項に帰着させて考え，説明することができる。〔観察・ワークシート〕
4	・多角形の内角や外角の性質を基に，いろいろな図形の角の大きさや関係などを考えること			○		・多角形の内角の和や外角の和などを求めることができる。〔小テスト〕

4）本時の活動

① 本時のねらい

多角形の内角の和について予想し，それが正しいことを既習事項に帰着させて考え，説明することができる。 【数学的な見方や考え方】

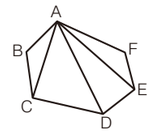
② 本時の展開 ※ 指 指導のポイント 評 評価のポイント

学習活動と予想される生徒の反応	☆評価と教師の支援
1 問題を把握する。 問題１：六角形の内角の和をいろいろな方法で求めよう。	・本時の学習問題を提示する。 指 本時の学習について，見通しがもてるように実態に応じて補助的な発問を行うなど導入を工夫する。
2 問題を解決するための見通しをもつ。 ＊内角とはどの角か，内角の和とは何か。 ＊何度になりそうか。 ＊分度器で実測せずに求められそうか。  	・六角形をプリントしたワークシートを生徒に配付し，考えやすいようにする。 ・内角の和を予想できていない生徒には，分度器を使って実際に測ってみるように指示する。 ・既習事項に帰着させて考えることができない生徒には，①や②のような分割の方法を示す。 ・１つできた生徒には，他の方法でも考えるよう指示する。 ・④の考えが出ないときには，教師から紹介する。
3 六角形の内角の和の求め方を考える。 ＊知っていることを使って自分なりに説明しよう。 ＊どのように求めたのか。	指 予想される生徒の姿や表現（式，図など）をあらかじめ具体的にイメージし，実態に応じた支援をする。
・六角形の内角の和は 720° であり，その理由は，三角形や四角形の内角の和を利用すれば説明できる。	指 見い出した事柄が成り立つことを説明する課題は，「○○（根拠）なので，△△（結論）である」という形で説明するよう日頃から指導しておく。
指 根拠を問う追発問をするなど，生徒の考えがより深まるようにする。	
4 具体的な多角形から一般化する。 問題２：n 角形の内角の和はどのような式で表されるだろう。  	・6，7，8，9，… と辺の数を増やした多角形を想起させ，どんな多角形についても内角の和を求めることができる式をつくることを目指す。
＊前段で学習したことや知っていることを使って自分なりに説明しよう。	**☆多角形の内角の和を予想し，それが正しいことを既習事項に帰着させて考えることができる。〔観察・ワークシート〕**
指 生徒同士のいろいろな考えを知ったり，考えを整理したりするために，伝え合う場を設ける。生徒や学級の実態に応じて，グループやペア学習形態の工夫をすることも効果的である。	評 問題を解決する際に期待する数学的な考え方（本時では三角形の内角の和は 180° であることを基にし，きまりにしたがって三角形に分ける考え方）を明確にして評価する。
◇辺の数を変えて，表をつくって考える。	

A	□ 角 形	3	4	5	6
	内角の和	180°	360°	540°	720°
		180° × 1	180° × 2	180° × 3	180° × 4

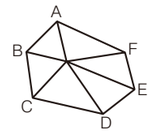
◇三角形に分割する方法を基に考える。

B



１つの頂点から各頂点に直線を引くと｛(辺の数)－２｝個の三角形に分けられる。
六角形の場合は，180° ×（6 － 2）この関係は，辺の数が変わっても変わらない。

C



図形の内部の点から各頂点に直線を引くと(辺の数)個の三角形に分けられる。しかし，内部の点の周りの 360° は内角ではない。したがって，六角形の場合は，(180°×6−360°)この関係は，辺の数が変わっても変わらない。

指 説明をし合う活動では，図と式，表などを関連づけ，思考の過程を説明できるようにする。

指 聞く側は，説明の根拠は正しいか，自分の考えと類似点や相違点はないかなど，視点をもって聞くよう指示する。

＊これらの考え方に関連はあるだろうか。

A と B の関連

180° × （6 − 2） 分けられる三角形の数

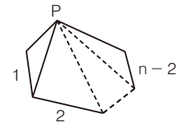
B と C の関連

180° × （6 − 2） ＝ 180° ×6 − 180° × 2
＝ 180° ×6 − 360°

＊六角形を n 角形として，内角の和を式で表そう。

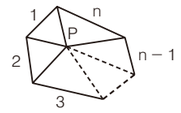
A と B の考え方から … 180° ×（n − 2）
C の考え方から … 180° × n − 360°

点 P を頂点にとる場合



(n−2)個の三角形に分けられる

点 P を内部にとる場合



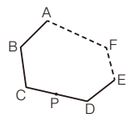
n 個の三角形に分けられる点 P の周りの 360° が不必要

5 多角形の内角の和の求め方を振り返る。

多角形の内角を求めるためには，
◆三角形の内角の和が 180° であることを利用する。
◆きまりにしたがって三角形に分ける。

6 評価問題を解く。

（評価問題）
点 P を辺上にとった場合について，
（1）n 角形の内角の和を求めるために，点 P から各頂点に直線をひいて三角形に分けなさい。
（2）このときの内角の和を求める式を次の中から選びなさい。また，そのようになる理由をかきなさい。
ア 180° ×（n −2）−180° イ 180° ×（n −1）−180° ウ 180° ×（n −1）



・n 角形の内角の和を予想できない生徒には，A の表をつくって内角の和がどのように変化するか調べるよう指示する。
・既習事項に帰着させて考えられない生徒には，六角形を分割してできる三角形の数と頂点，辺，角の数の関係を考えるよう指示する。
・１つできた生徒には，他の方法でも考えさせたり，説明をきちんと記述させたりするなどの指示をする。

・A から帰納的に導かれる式が，B の図で演繹的に説明できることを理解させる。

指 「考えを表現すること」だけでなく，「考えをつないだり，比較したりして，さらに考えを深めていくこと」を大切にする。

・三角形の内角の和が 180° であることを基にして多角形の角についての性質が見い出せたことと，三角形に分ける方法と分割した三角形の個数との関係を振り返る。
・生徒の実態に応じて，点 P のとりかたは他にも，「辺上」，「外部」などが考えられることを紹介する。

指 結果だけでなく，その過程を含めて振り返りを行うことで，本時の学習内容の定着を図る。

指 生徒の取組を肯定的にとらえた評価言を大切にし，学習意欲の向上につなげる。日々，この指導の積み重ねを大切にしていく。

☆多角形の内角の和の求め方を，既習事項に帰着させて考え，説明（記述）することができる。〔小テスト〕

評 小テストを実施し，自分の考えを実際に記述させ，その内容や記述の仕方を評価することは，客観的な評価方法として有効である。

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援が必要とされる生徒への指導の手だて
数学的な見方や考え方	多角形の内角の和について予想し，それが正しいことを既習事項に帰着させて考え，多様な方法で説明（記述）することができる。	多角形の内角の和について予想し，それが正しいことを既習事項に帰着させて考え，説明（記述）することができる。	内角の和についての表をつくったり，六角形を分割してできる三角形の数と頂点，辺，角の数の関係を考えたりするよう助言する。

※引用：「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校 数学）」国立教育政策研究所

理科

1 目標

自然の事物・現象に進んでかかわり，目的意識をもって観察，実験などを行い，科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め，科学的な見方や考え方を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
趣旨	自然の事物・現象に進んでかかわり，それらを科学的に探究するとともに，事象を人間生活とのかかわりでみようとする。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，目的意識をもって観察，実験などを行い，事象や結果を分析して解釈し，表現している。	観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	自然の事物・現象について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。

3 改訂のポイント

科学に関する基本的な概念の一層の定着を図り，科学的な見方や考え方，総合的なものの見方の育成の充実を図る。

○ 「エネルギー」,「粒子」,「生命」,「地球」などの科学の基本的な見方や概念を柱として内容を構成し，科学に関する基本的概念の一層の定着が図れるようにする。
○ 科学的な見方や考え方を育成し，科学技術と人間，エネルギーと環境など総合的な見方や考え方を育てる。
○ 科学的探究の能力の育成，内容の系統性の確保などの観点から，小学校との接続に十分配慮する。

科学的な思考力・表現力の育成を図る観点から，目的意識をもって観察・実験を行いその結果を整理し考察する学習活動や探究的な学習活動の充実を図る。

○ 学校や生徒の実態に応じ，課題解決のために探究する時間を設けるようにする。
○ 問題を見いだし観察，実験を計画する場面では，事実や根拠に基づいて結果を予想したり，検証方法を討論したりしながら考えを深め合うよう留意する。
○ 観察，実験の結果を分析し解釈する場面では，結果を図，表，グラフなどの多様な形式で表したり，モデルと比較したりするなどして，考察する時間を十分に確保し，考えをまとめ表現する学習活動を充実する。
○ 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする場面では，レポートの作成，発表，討論など知識及び技能を活用する学習を工夫し充実する。

観察・実験や自然体験，科学的な体験の一層の充実を図る。

○ 学校や生徒の実態に応じ，探究的な学習を進めるための観察や実験の時間を十分に設けるようにする。
○ 原理や法則の理解を深めるためのものづくりを，各内容の特質に応じて適宜行うようにする。
○ 継続的な観察や季節を変えての定点観測を，各内容の特質に応じて適宜行うようにする。
○ 博物館や科学館などの外部リソースと積極的に連携，協力を図るよう配慮する。
○ 観察，実験，野外観察の指導においては，事故防止に十分留意するとともに，使用薬品の管理及び廃棄についても適切な措置をとる。

理科を学ぶことの意義や有用性を実感させ，科学への関心を高める観点から，実社会・実生活との具体的な関連を重視する。

○ 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れる。
○ 理科で学習することが様々な職業などと関係していることに触れる。
○ 生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度が育成されるようにする。
○ 持続可能な社会の構築が求められている状況も踏まえ，環境教育の充実を図る。
○ 観察，実験の過程での情報の検索，実験の計測，実験データの処理などにおいて，ICT を積極的かつ適切に活用する。
○ 生命の神秘を感じとり，自然を愛する心情や真理を大切にしようとする態度を育むことなど，道徳の時間などとの関連を考慮しながら，理科の特質に応じて適切な指導をする。

4 評価規準と展開例

1）単元名　第２学年「化学変化と物質の質量」全６時間

2）単元のねらい

化学変化についての観察，実験を通して，化学変化における物質の量的な関係について理解させるとともに，これらの事物･現象を原子や分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方を養う。

3）単元の評価規準

【本単元の評価規準の設定例】

自然事象についての関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
化学変化と物質の質量に関する事物・現象に進んでかかわり，それらを科学的に探究しようとするとともに，事象を日常生活とのかかわりでみようとしている。	化学変化と物質の質量に関する事物・現象の中に問題を見いだし，目的意識をもって観察，実験などを行い，事象や結果を分析して解釈し，原子や分子のモデルと関連付けて自らの考えを導き，表現している。	化学変化と物質の質量に関する事物・現象についての観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理など，事象を科学的に探究する技能を身に付けている。	観察や実験などを通して，化学変化と物質の質量に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。

4）単元の指導計画と評価計画（全６時間）

評 観点別評価に関して，指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価(◎)と，主に指導に生かす評価(○)の２つに区別して示す。

評 １単位時間当たり１～２回の評価回数となるように観点を設定する。また，授業中の観察と授業後に教師が確認しながら評価を行えるような方法を適切に組み合わせて，全員の学習状況を適切に見取るようにする。

第４章　化学変化と物質の質量

時	主な学習活動	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	化学変化と質量の変化 ・化学変化の前後では，物質の質量の総和はどうなるかを話し合う。	◎				・化学変化の前後の質量の変化に関心をもち，進んで調べようとしている。	行動観察 記述分析
			○			・化学変化の前後で質量がどう変化するかを考え，発表している。	行動観察 記述分析
2（本時）	・化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い，質量変化について考える。		◎			・物質が化学変化したときの前後の質量を調べる実験を行い，質量の変化について原子モデルを使って説明している。	行動観察 記述分析
3	・化学変化では物質を構成する原子の組合せが変わることについて習得する。				◎	・化学変化では物質を構成する原子の組合せが変わることを，例をあげて説明している。	記述分析
4	化合する物質の割合 ・金属を加熱したとき，結び付く酸素の質量について話し合う。	◎				・化学変化が起こるとき，反応する物質の質量について関心をもち，進んで調べようとしている。	行動観察 記述分析
	・実験を行い，加熱する前後の質量を調べ，実験の結果をグラフに表す。			○		・金属を加熱して，反応の前後の質量を正しく測定し，その結果をグラフに表している。	行動観察 記述分析
5	・実験結果から，一定の質量の金属と化合する酸素の質量には限度があることを確認する。		○			・実験結果から，一定の質量の金属と化合する酸素の質量には限度があることを説明している。	記述分析
	・実験結果から,金属の質量と化合した酸素の質量との関係をグラフに表す。			◎		・実験結果から,金属と化合する酸素の質量の関係をグラフに表している。	記述分析
6	・金属の質量と化合した酸素の質量との決まりについて考える。		◎			・実験結果のグラフから，ある質量の金属と化合する酸素の質量の関係の規則性を見いだしている。	行動観察 記述分析
	・反応する物質の質量の割合についてまとめる。				◎	・反応する物質の質量の比が一定であることを説明している。	記述分析

指 生徒が主体的に探究する学習活動となるように，問題を見いだし問題解決に対する見通しをもつ場面をつくる。

指 考察したことを文字や記号としての表現ばかりでなく，目に見えない原子や分子をイメージしやすいようにモデルを用いさせるなどの工夫をする。

評 原子モデルの操作は実験結果と関連付けられているか，レポートの記述に科学的な根拠や概念がみられるかをとらえる。

指 粒子概念等，１単位時間，１単元だけでは定着が難しい内容は，３年間を見通して反復する授業を展開することで，段階的に見方や考え方を養うようにする。その際，小学校の学習内容とも関連付けて捉えさせることも考えられる。

指 事実や根拠に基づいて予想させ，目的意識をもった観察，実験となるようにする。

評 実験器具を目的に応じて正しく扱い，測定誤差を小さくするように実験しているか観察する。

指 考察場面において，実験した結果をモデルで表したり，レポートの作成や発表を適宜行ったりしながら，言語活動の充実を図る。

指 科学的な概念を使用して考えたり説明したりするレポート作成,発表,討論など,知識及び技能を活用する学習の充実を図る。

◎：指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価　　○：主に指導に生かす評価

5）本時の学習（第２時）

① 本時のねらい

物質が化学変化したときの前後の質量を調べる実験を行い，質量の変化について原子モデルを使って説明することができる。　【科学的な思考・表現】

② 本時の展開

主な学習活動	教師の支援・留意点 ◇　評価 ☆
1　前時を振り返り，化学変化によって質量の増減があることを確認する。［一斉］	◇前時で生成した物質とともに実験内容を確認する。
2　化学変化による質量変化を調べる実験を行う。［班］ Ⅰ木炭の燃焼 Ⅱ銅の加熱 ・質量が変化するかを予想する。 ・協力して実験を行う。 ・結果を記録用紙に記入する。	◇実験方法については，器具や薬品を示しながら説明する。 ◇加熱時には安全眼鏡をかける等，適切な器具の扱いを指導する。
3　原子モデルを利用して変化を考察する。［個］ ・原子モデルを**利用**して実験の変化の様子を表す。	◇ミニホワイトボードと原子モデルを個人に準備する。 ◇各実験について，反応がどのように進むのか原子モデルを用い，組み合せるように促す。 ◇実験結果が正しく整理されているかを机間指導する。 ☆　**思考　原子モデルを使って，化学変化の前後で物質の質量が変化することを説明している。〈レポート〉**
4　考察したことを発表する。［一斉］ ・原子モデルを使って発表する。	

指 実験映像（前時にビデオ撮影したもの）を視聴することで，前時を振り返る場面をつくるなどの方法が考えられる。

指 生徒が目的意識をもち，観察・実験，追究することで，科学的探究学習を進めるものとなる。
目的意識をもった観察・実験となるように，根拠を挙げた発表を促したり，生徒の予想の違いを明確にしたりする。

指 考察をまとめる際のポイント
○　実験データを適切に反映させているか。
○　論理的に矛盾や飛躍がないように，複数の実験結果から多面的に考察し結論を導き出しているか。
○　実験結果から考察した結論を相手に分かりやすく表現できているか。例えば，モデル図や絵，グラフなどの相手の理解を促す表現方法を用いることが考えられる。

評 化学変化を原子や分子のモデルと関連付け，自らの考えを適切な言語や図などを使って分かりやすく表現しているかをレポートから記録分析し，評価する。

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とすると判断される生徒への指導の手立て
科学的な思考・表現	原子モデルを使って，化学変化の前後で物質の質量が変化することを，これまでに行った実験結果等を根拠として説明している。	原子モデルを使って，化学変化の前後で物質の質量が変化することを説明している。	実験結果が記述できない生徒には，班の中で内容と結果を確認させる。化学変化を原子モデルで表せない生徒には，組合せ方を確認させる。質量の変化について説明できない生徒には，測定していない物質の質量に注目させる。

指 生徒の発言や行動に対して評価言を返すことで，学習指導の改善に生かす。
（例）支援を必要とすると判断される生徒→追究の見通しについて対話したり，つまずきを全体で取り上げたりする。
十分満足できると判断される生徒→追究のよさを全体に位置付け，一人一人の考えを深めていくことにつなげる。

音楽

1 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情を育てるとともに，音楽に対する感性を豊かにし，音楽活動の基礎的な能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

2 評価の観点及びその趣旨等

1）改訂の概要について

［表１：評価の観点と領域との関係］

観点	ア）音楽への関心・意欲・態度	イ）音楽表現の創意工夫	ウ）音楽表現の技能	エ）鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ，音や音楽に対する関心をもち，主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け，歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，解釈したり価値を考えたりして，よさや美しさを味わって聴いている。
A 表現	○	○	○	
B 鑑賞	○			○

（太斜線は改訂で「鑑賞の能力」に移された部分）

○　観点イ「音楽表現の創意工夫」及び観点エ「鑑賞の能力」の趣旨では，発想や構想に基づき創意工夫して表現することや，鑑賞した楽曲のよさを味わい批評することなど，**「知覚」と「感受」をかかわらせた学習展開の重要性**が示された。（表１：趣旨の前半部分を参照）

このことは**音楽科の学習に即した思考力や判断力を育む**ことにつながるため，これからの学習指導においてもより一層大切にしなければならない。

○　**観点ウ「音楽表現の技能」を評価**するに当たっては，従前と同様，**観点イ「音楽表現の創意工夫」と観点ウ「音楽表現の技能」とで評価する**ことが示されている。

また，**観点エ「鑑賞の能力」を評価**するに当たっては，従前では「知覚･感受」に関する観点（観点イ「音楽的な感受」）と，「自分なりに解釈したり価値を考えたりする能力」に関する観点（観点エ「鑑賞の能力」）とで示されていたが，今回の改訂では，**一つの観点の中で関連させて一体的に見取る**ことが示された。

2）改訂の趣旨について

○　観点ア「音楽への関心・意欲・態度」は，学習内容としての音や音楽に対する関心や音楽活動への主体的な取組を評価することである。

○　新しい評価の観点イ「音楽表現の創意工夫」及び観点ウ「音楽表現の技能」の**「音楽表現」**は,「A 表現」の「歌唱」「器楽」「創作」などの**諸活動を指すもの**として,従前の「表現」から名称が改められた。

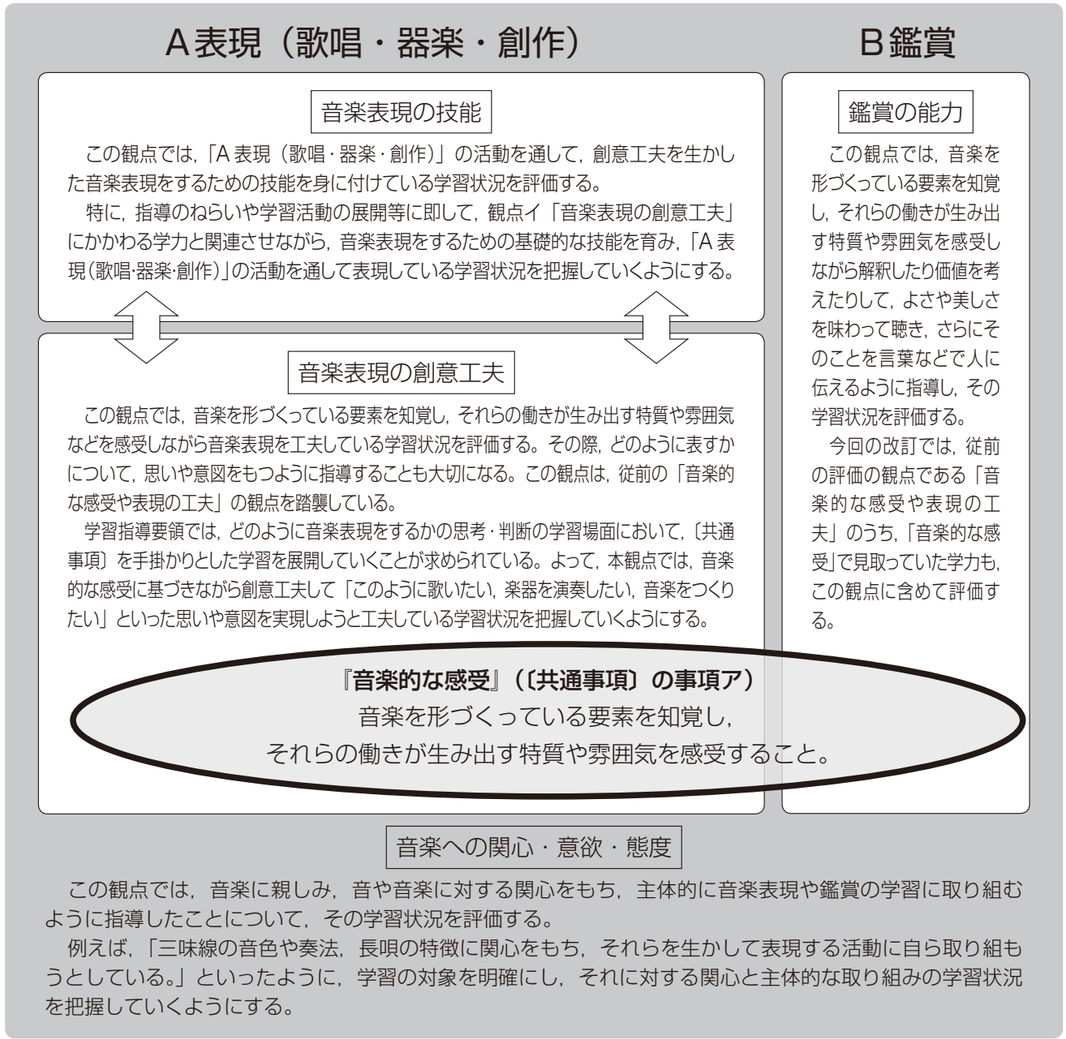
それは，言語活動の場面における，**「思考・判断」したことを顕在化する意味での「表現」と区別するためである。**

○　今回の改訂では，従前の観点イで示されていた**『音楽的な感受』という表記はないが，このことを評価しないということではない**。『音楽的な感受』については，新しい評価の観点イ「音楽表現の創意工夫（A 表現）」と観点エ「鑑賞の能力（B 鑑賞）」のそれぞれに位置付けられた。（図１を参照）

※　学習指導要領では，**〔共通事項〕を学びの手掛かりとしながら思考・判断する力の育成とその評価の実施を重視**している。そのため,**〔共通事項〕のアにかかわる評価は,観点イ「音楽表現の創意工夫」と観点エ「鑑賞の能力」のそれぞれで評価する**ことが示された。（表１:前頁の趣旨の前半部分を参照）

3）学習内容と評価の観点との関係について

［図１］



※　**『音楽的な感受』は,「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」に共通して位置付けられ**,「A 表現」及び「B 鑑賞」のそれぞれの学習を支えるとともに，**両領域の関連を図る上でも鍵となる。**

4）実際の評価に当たっての配慮事項について

○　**「A 表現」の学習**では，上記図１の ⇕ で示したように,「音楽表現の創意工夫」にかかる学力と「音楽表現の技能」にかかる学力を**相互に関連させながら伸ばしていく**ようにする。

○　**「音楽への関心・意欲・態度」は，他の三つの観点と密接に結び付いている。**「A 表現」及び「B 鑑賞」の活動を通して，学習内容に関心をもち，主体的に学習に取り組もうとする意欲や態度を育むようにする。

3 改訂のポイント

※　学習指導要領に示された音楽科の学習内容は，表現領域（「歌唱」，「器楽」，「創作」の三分野），鑑賞領域及び**〔共通事項〕**で構成されている。

※　指導のねらいを一層明確にするとともに，音や音楽から知覚・感受したことを基に，思考・判断して音楽を表現したり，味わったことを人に伝えたりする**一連の学習過程を重視する。**

○　新設された**〔共通事項〕**は，表現と鑑賞の全ての活動に共通して指導の支えとなるものである。音楽を形づくっている要素を**知覚し**，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を**感受する**指導や，音楽に関する用語や記号などを**音楽活動と関連付けながら理解する**ように指導など，改訂の趣旨を踏まえた指導が求められる。

○　「創作」については，これまでの課題を踏まえて指導内容が焦点化された。事項アでは「言葉や音階などの特徴」を手掛かりにして「旋律をつくること」，事項イでは「音素材の特徴」を生かして「反復，変化，対照などの構成」を工夫して学習を展開していくようにする。また，**即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど，音を音楽へと構成していく体験を重視する。**

○　鑑賞領域については，音楽を形づくっている要素を**知覚するようにし**，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を**感受することができる学習を展開**する。

○　楽曲や演奏することの楽しさに気付いたり，楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりする能力を高められるよう，音楽にかかわる用語等を適切に用いながら，自分が感受したことを言葉で伝え合うなど，音楽科の学習に即した**言葉の活用を重視する。**

○　**教科目標に「音楽文化についての理解を深める」ことが新たに規定**された。我が国や郷土の伝統音楽についての理解を深めることによって，諸外国の音楽文化との共通点や相違点に気付く学習や，音楽と人間とのかかわり，音楽が社会や生活に果たす役割などを理解することで，**多様な音楽文化を尊重する態度を育成**する。

4 評価規準と本時の展開例

【対象学年：第３学年】

1）題材名

安来節の魅力を発見しよう　～声の魅力と節回しからのアプローチ～

2）題材の目標

「安来節」と「サンタルチア」の発声や節回しに関心をもって，旋律の特徴を知覚し，それによって生み出される特質や雰囲気を感受する活動を通して，旋律の唄い方を工夫したり，音楽のよさを味わったりする能力を育てる。

3）学習指導要領とのかかわり

・本題材で指導する事項：A 表現（1）イ　B 鑑賞（1）ア，イ
・本題材で指導する内容：〔共通事項〕音色，旋律

4）教材

・「安来節」（島根県民謡）
・「サンタルチア」（ナポリ民謡）

5）評価規準

①　領域・分野と評価の観点との関連

領域・分野＼評価の観点	ア）音楽への関心・意欲・態度	イ）音楽表現の創意工夫	ウ）音楽表現の技能	エ）鑑賞の能力
A・歌唱	○	○	○	
A・器楽				
A・創作				
B・鑑賞	○			○

②　題材の評価規準と単位時間における具体的な評価規準

	ア）音楽への関心・意欲・態度	イ）音楽表現の創意工夫	ウ）音楽表現の技能	エ）鑑賞の能力
題材の評価規準	曲種に応じた発声や節回しに関心をもち，それらのよさを味わって批評する鑑賞の学習や，それらを生かして唄う表現の学習に主体的に取り組もうとしている。	「安来節」の発声や節回しを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，楽曲にふさわしい発声や節回しを理解するなどして音楽表現を工夫し，どのように唄うかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために，必要な技能（発声，節回し）を身に付けて唄っている。	「安来節」の発声や節回しを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりを理解するとともに，楽曲の特徴をその文化・歴史と関連付けて理解し，根拠をもって批評して「安来節」のよさを味わっている。
具体的な評価規準	①「安来節」と「サンタルチア」の発声や節回しの特性に関心をもって聴いている。（鑑賞） ②「安来節」を特徴付ける独特の発声や節回しを生かして唄う学習に意欲的に取り組もうとしている。（歌唱）	①「安来節」の節回しを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，楽曲に応じた発声を理解して，どのように唄うかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫している。（歌唱） ②ゲストティーチャーが示す発声や節回しのポイントについて知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，楽曲に応じた発声や節回しを手掛かりにして思いや意図をもって音楽表現を工夫している。（歌唱） ③独特の発声や特徴的な節回しを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，どのような声や節回しで唄いたいかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫している。（歌唱）	①曲種に応じた発声や節回しの特性を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声や身体の使い方など）を身に付けて唄っている。（歌唱）	①「安来節」と「サンタルチア」の発声の違いや「安来節」の節回しを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。（鑑賞） ②発声や節回しを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連づけて理解し，根拠をもって解釈したり価値を考えたりするなどして，よさや面白さを味わって聴いている。（鑑賞）

評 各学校において具体的な評価規準を設定する場合には，指導のねらい，教材の特徴，学習活動の流れを考慮するなどして，実際の学習活動に即した評価規準を設定する。

評 観点エ①で見取ったことに基づきながら楽曲の特徴等について味わって聴くように指導を工夫する。

評 従前の観点イで見取っていた「音楽的な感受」の部分を，観点エで評価する。

評 観点別に評価を行う際には，配当時間内におけるバランスを考慮するとともに，１単位時間に設定する評価規準を１～２つに絞るなど，効果的･効率的に評価ができるように配慮する。

6）指導と評価計画（全５時間）

次	時	ねらい	○学習内容　・学習活動	評価	評価方法
第一次	1	「安来節」と「サンタルチア」を比較鑑賞し，発声や言葉の節回しの違いを知覚し，そこから気付くよさや面白さを文化的背景とかかわらせて感受することができるようにする。	○「安来節」と「サンタルチア」の発声や節回しの違いを知覚し，それぞれのよさや面白さを感受する。 ・「安来節」の冒頭部分“やす～ぎ～”の部分と「サンタルチア」の“彼方島へ～”の部分を繰り返して比較鑑賞することで発声や節回しの違いについて気付く。 ・気付いたことや,自分の考えをワークシートに記入する。 ・歌詞の背景となる場面などとかかわらせて各自が気付いたことや感受したことをグループ内で発表し，クラス全体で共有する。	ア① エ①	発言の内容 ワークシートの記述

指 知覚したことと感受したことを分けて書けるようにワークシートを工夫する。

			○「安来節」の歌詞が表している意味を考えたり，産字の箇所に込められた思いについて教師から話を聞いたりして楽曲に対しての関心をもち，知覚・感受を深める。 ○学習の振り返りをする。		
第二次	2	五線譜に起こした「安来節」と「安来節(原曲)」との比較鑑賞を通して，節回しの面白さを生かした唄い方を工夫することができるようにする。	○二種類の「安来節（五線譜に起こしたものと原曲)」を比べて，節回しの面白さを知覚・感受しながら，それを生かした唄い方を工夫する。 ・「安来節（原曲)」と音とリズムを五線に起こした「安来節」を比較聴取し，節回しの動きを知覚する。 ・「安来節（原曲）」を聴き，知覚した節回し（線譜）とその特徴をワークシートに記入する。 ○ワークシートに記入したことを意識しながら旋律を唄う。 ・音高や節回しに気を付けて，線譜を見ながら唄う。 ○学習の振り返りをする。	ア② イ①	発言の内容 演奏の聴取 線譜への書き込み ワークシートの記述
	3	ゲストティーチャーの模唱と前時に自分達が工夫した唄い方とを比較し，発声や言葉の発音，抑揚などを手掛かりにしながら，楽曲に応じた唄い方を工夫することができるようにする。	○ゲストティーチャーの模唱から知覚・感受したことを生かしながら，楽曲に応じた唄い方を工夫する。 ・ゲストティーチャーの模唱を聴き，「発声方法」「節回しの付け方と唄い方」「唄の出方」「歌詞の入れ方」について気付いたことをワークシートに記入し，質問する。 ・ゲストティーチャーのアドバイスを生かし，実際に試しながら唄う。 ・学習した表現を生かして，全員で「安来節」を唄う。 ○学習の振り返りをする。	イ②	発言の内容 演奏の聴取 楽譜への書き込み ワークシートの記述
	4（本時）	独特の発声や特徴的な節回しを手掛かりにしながら，グループで唄い方を工夫することができるようにする。	○前時のアドバイスを生かしながら，グループごとに「安来節」の唄い方を工夫する。 ・前時のアドバイスを生かして唄うことを確認し，唄い方を工夫する部分（フレーズ）を決める。 ・「安来節」の独特の発声や特徴的な節回し（産字）を生かした唄い方について知覚・感受しながら工夫する。 ・CD を聴いて参考にしたり，いろいろな唄い方を試したりして，どのような声や節回しで唄いたいかについて考え，思いや意図をもつ。 ○学習の振り返りをする。	イ③ 評 第３時から継続した学習過程をワークシートに記述した内容や発言等から評価する。	発言の内容 演奏の聴取 線譜への書き込み ワークシートの記述
第三次	5	発声や体の使い方に気を付けながら唄うとともに，「安来節」がもつ歴史的背景を理解して，自分なりに批評しながら音楽全体を鑑賞することができるようにする。	○これまでに学習した表現を生かしながら，楽曲に応じた発声や節回しを生かして唄う。 ・グループごとに工夫した点を紹介しながら,演奏を発表する。 ・発表を聴いて，演奏効果のあった点について話し合うとともに，実際に唄ってみる。 ○「安来節」の歴史的背景を知るとともに，『楽曲の特徴とそのよさ』について自分なりの考えをまとめ，全曲を鑑賞する。 ・これまでの学習を踏まえ，発声，節回しなどを具体的に挙げながらワークシートに記入する。 ・記入したことをもとに話し合い，全体で共有する。 ・「安来節」の全体を通して鑑賞する。 ○学習の振り返りをする。	ウ① エ② 評 評価規準ウ①は，「音楽表現の創意工夫（イ①・イ②・イ③)」を受けて，それを実際の音楽で表現できているかを見取るために配置する。	発言の内容 ワークシートの記述

7）本時の学習（本時　4／5）

① 本時のねらい

独特の発声や特徴的な節回しを手掛かりにしながら，グループで唄い方を工夫することができるようにする。【音楽表現の創意工夫】

② 本時の展開

	・学習活動　◇予想される生徒の反応	教師の支援	評価規準と方法
導入	・前時のゲストティーチャーのアドバイスを確認する。（前時のワークシートを参照） 指 本時のねらいに迫るための発問や指示を精選する。	・アドバイスをまとめたものを提示しながら，前時に学習したことを想起させ，実際に声に出しながら確認していくように支援する。	
展開	・本時のめあてを知る。 ゲストティーチャーのアドバイスを生かして，さらに唄い方を工夫しよう！ ・独特の発声と特徴的な節回しの唄い方を確認する。 ・工夫して唄う部分（「出雲名物」「荷物にならぬ」「聞いてお帰れ安来節」のいずれか）を決め，節回しの特徴（音高,揺れ方）について考える。 指 記入したり，話し合いをさせたりすることが目的にならないように，表現しようとする意図を明確にする。 ・考えたことについてグループで意見交換をしながら，グループ独自の節回しの入れ方を唄いながら工夫する。 例） ◇「“いず～も”の『ず～』は，後半の音が高くなっていくとともに節回しを揺らしてみよう」 ◇「“なら～ぬ”の『ら～』は音が低くなるとともに節回しの揺れを大きくして，声の音色を暗くしてみよう」 指 音楽にかかわる用語等を用いながら，表現しようとする思いや意図を伝え合う。 ・音楽的な感受をもとに，発声や節回しの入れ方を工夫しているグループの発表を聴く。 ・学習した表現を生かして，全員で「安来節」を唄う。	・めあてと一時間の授業の流れを黒板に提示する。 ・“やす～ぎ～せん～げ～ん～”の部分の声の動き方の特徴を図にしたものを提示し，視覚的に理解できるように支援する。 ・節回しを知覚することに終始しないように，節回しが唄い手の自由な感性のもとに付けられていることに気付かせる。 ・発声への意識が外れないようにアドバイスする。 ・各グループを廻りながら活動の様子を確かめて，必要に応じて声の動き方や線譜への表し方について助言する。 指 音楽的な感受に基づく表現が，音楽的な技能を高めることにつながるように支援する。 ・演奏する前に工夫したところを発表させる。 ・発表したグループの表現方法を全員で模唱し，知覚・感受を通して，表現意図を理解させる。	イ③ 発言の内容 線譜への書き込み 演奏の聴取 ワークシートの記述 評 ワークシートには，学習のねらいに沿った項目を設定し，学習状況を評価する。 ・発声や節回しの特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しているか。 ・発声や節回しの入れ方について，思いや意図をもち，表現を工夫しているか。
まとめ	・気付づいたことや感じたことと実際の表現を結び付けていくことで発見したことを共有する。 ・次時は，全グループが発表するとともに，楽曲の背景について学び，全曲を鑑賞することを確認する。	・表現を試行錯誤していく中で気付いたことを発表させる。 指 本時のねらいに沿った発言ができるように，発問を工夫する。	

③ 本時の評価　【音楽表現の創意工夫】イ③

独特の発声や特徴的な節回しを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，どのような声や節回しで唄いたいかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫している。

評価の観点＼生徒の姿	十分満足できると判断される生徒の姿の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の姿の具体例	支援を必要とすると判断される生徒の姿の具体例と支援
音楽表現の創意工夫	・“にも～つ～に～な～ら～ぬ～”の部分を節回しと発声の特徴を生かしながら一息で唄っている。 ・“きい～て～おか～え～れ～やす～ぎ～ぶ～し～”の“え～れ～”の部分の節回しの特徴を生かしながら，変化する声の音色を意識して何度も唄い試している。	・“にも～つ～に～な～ら～ぬ～”の“な～ら～(産字)”の節回しと発声の特徴をとらえて，唄いながら試している。 ・“きい～て～おか～え～れ～やす～ぎ～ぶ～し～”の“え～れ～”の部分の音高や音の揺れ方を線譜で表し，唄いながら試している。	・ただ，何となく声を出すだけの表現をしている。 →声の動きを手振りなどで表し，唄い方のイメージがもてるように支援する。

評「おおむね満足できる～」に教師の指導が加わることで質的な高まりが見られる生徒の姿を記す。

美術

1 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を豊かにし，美術の基礎的な能力を伸ばし，美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて豊かに発想し，よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて，表現の技能を身に付け，意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。	感性や想像力を働かせて，美術作品などからよさや美しさを感じ取り味わったり，美術文化を理解したりしている。

※ 「思考・判断・表現」の「表現」は，基礎的・基本的な知識・技能を活用して学習活動において思考・判断したことと，その内容を表現する活動とを一体的に評価することを示すものであり，美術科で示す領域「A表現」とは異なる。「A表現」の学習指導に係る学習評価については，美術科で設定される評価の観点をふまえて行うことが適当である。

3 改訂のポイント

○ 教科の目標に，「美術文化についての理解を深め」を加え，美術を愛好する心情と感性を育て，美術の基礎的な能力を伸ばすとともに，生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養うことを一層重視する。

○ 「A表現」の内容を「(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に，絵や彫刻などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項を指導する。」「(2) 伝える，使うなどの目的や機能を考え，デザインや工芸などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項を指導する。」「(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して，技能に関する次の事項を指導する。」とし，内容を発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理する。

○ 我が国の美術についての学習を重視し，第1学年に「美術文化に対する関心を高める」学習を新たに示し，3年間で系統的に美術文化に関する学習の充実が図られるようにする。自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視し，第1学年に「作品などに対する思いや考えを説明し合う」学習を取り入れ，3年間で説明し合ったり批評し合ったりするなどの言語活動の充実が図られるようにする。

○ 表現及び鑑賞の各活動において，共通に必要となる資質や能力を〔共通事項〕として示す。〔共通事項〕は，「A表現」及び「B鑑賞」の学習を通して指導し，形や色彩，材料などの性質や，それらがもたらす感情を理解したり，対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力が十分育成されるようにする。

○ スケッチや映像メディア，漫画，イラストレーションなどは，生徒が学習経験や能力，発達特性等の実態を踏まえ，自分の表現意図に合う表現形式や表現方法などを選択し創意工夫して表現できるように配慮事項に示す。

4 評価規準と展開例

1）題材名 【第2学年】

「心惹かれる，あの場所を～校舎内の風景を描く～」（全8時間）「A表現（1）（3）」「B鑑賞」

2）題材のねらい

何気なく見ている校舎や教室などの場所から，自分だけにしか見つけられないよさや美しさを見いだすことに関心をもち，その場所から感じ取った色彩の特徴や美しさなどの表現方法を工夫し，創造的に表現するとともに，場所や描いた作品からよさや美しさを感じ取り味わうことができる。

3）題材の評価規準及び学習に即した評価規準

①題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 校舎や教室などの場所を深く見つめ，感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち，主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 鑑賞 他者の作品の色彩の特徴や空間の雰囲気などに関心をもち，主体的に見方や理解を深めようとしている。	校舎や教室などの場所を深く見つめ，感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，考えたことなどを基に，感性や想像力を働かせて主題を生み出し，色彩の明るさや鮮やかさ，量感や奥行きなどを考え，心豊かな表現の構想を練っている。	形や色彩などの表し方を生かし，主題を生み出すための自分の表現意図に合う表現方法を生かしたり着彩の順序などを考え見通しをもちながら，創造的に表現している。	色彩の特徴や空間の雰囲気などから，対象のよさや美しさ，作者の心情や意図を感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。

※「A表現」「B鑑賞」の題材であるため，「美術への関心・意欲・態度」をそれぞれ示した。

②学習活動に即した評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 関① 校舎や教室などの場所から，感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち主体的に主題を生み出そうとしている。 表現 関② 形や色彩などの表し方など，材料や用具を主体的に工夫して表現しようとしている。 鑑賞 関③ 作品から感じ取った色彩の特徴や空間の雰囲気などから，作者の心情や意図，そのよさや美しさを感じ取り，自分の思いや考えをもち，主体的に感じ取ろうとしている。	発① 校舎や教室などの場所を見つめ，感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，考えたことなどを基に，感性や想像力を働かせて主題を生み出している。 発② 主題など基に，構図や，色彩の明るさや鮮やかさ，量感や奥行きなどを考え，心豊かな表現の構想を練っている。	創① 形や色彩などの表し方を生かし，主題を生み出すための自分の表現意図に合う表現方法を生かしたり着彩の順序などを考え見通しを持ちながら，創造的に表現している。	鑑① 色彩の特徴や空間の雰囲気などから，対象のよさや美しさ，作者の心情や意図を感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。

4）題材の指導計画と評価計画

時	●学習のねらい ・学習活動	評価 関	発	創	鑑	評価規準【評価方法】
1	〈課題把握・発想や構想を練る〉 ●校舎や教室などの場所を見つめ，感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち主題を生み出すことができる。	○				関① 校舎や教室などの場所から，感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち主体的に主題を生み出そうとしている。【観察・ワークシート】

指 「主題を生み出す」とは，**自らが強く表したいと心の中に思い描くこと**である。主題が生み出されないと，発想や構想が弱くなる。また次の創造的な技能も活用できにくくなる。指導に当たっては，生徒が「何を描きたいのか，どういう思いで表現しようとしているのか」という生徒自身の思いを読み取り，教師自身がその主題をよく理解することが必要である。そのために他者の意見を聞いたり，ワークシートに記入するなどし，自分のイメージを膨らませることが大切である。

評 この観点の評価対象は，生徒が**「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」を身に付けようとしたり，発揮しようとしたりすることへ向かう関心・意欲・態度**である。特に表現活動では，発想や構想を練るためにアイデアスケッチを熱心に繰り返し描いたり，自分の表現に近づけるように絵の具で色を試したり塗り重ねたりするような能動的な姿が授業の中で表れることがある。そのため，机間指導等の際に**このような姿を捉えながら指導と評価を行うことが大切である。**

2 本時	指 自分が感じるよさや美しさの根拠はどこからもたらされるのかを，構図や色彩等を手がかりに見いだすことができるように助言する。 ・参考作品などから作者の意図や表現の工夫などについて意見を述べ合う。 ・校内写真を見て，心惹かれる雰囲気の場所を考える。 ・その場所に行き，場所のもつ雰囲気や，全体の色彩の感じ，光の具合などを確認する。 ・ワークシートを記入する。 ・なぜそこに惹かれるのか，描きたいと思ったのかをグループごとで伝えあったりしながら，自分の考えを深める。		○			指 この鑑賞は，次時の関心・意欲・態度を高めるためであって評価はしない。また，そのことを踏まえて学習活動を設定していることを意識し，指導を行っていくことが大切である。 発① 校舎や教室などの場所を見つめ，感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，考えたことなどを基に，感性や想像力を働かせて主題を生み出している。【発言内容・ワークシート】
3 4 5 6 7	〈制作活動〉 ●主題から，どのような雰囲気で描きたいのかを考えながら，構想を練り，自分の表現意図に合う構図や色彩等を工夫することができるようにする。 ・主題を基に，構図を考えながらアイデアスケッチする。 指 描く場所の選定では，安全に十分配慮させ，教師もその確認を行う。 ・アイデアスケッチを基に構想を深め，着彩方法も別の用紙に試すなどしながら自分の表現方法を探り，制作をする。 指 発想や構想の能力を高めるためにアイデアスケッチで構想を練ったり，前時で聞いた他者の意見を反映させるなどしながら自分の主題を基に表現できるようにする。 評「創造的な技能」は**制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れるもの**である。ここでは，作品から表現方法の工夫等を制作途中の作品を中心に，完成作品からも再度評価し，**生徒の「創造的な技能」の高まりを読み取ることが大切**である。	○	○	○		指 見上げる，見下ろすなど視線等を工夫することで，描きたいイメージに近づくようにする。 関② 形や色彩などの表し方など，材料や用具を主体的に工夫して表現しようとしている。【制作の様子】 発② 主題など基に，構図や，色彩の明るさや鮮やかさ，量感や奥行きなどを考え，心豊かな表現の構想を練っている。【アイデアスケッチ】 評 **発想や構想は，制作が進む中で徐々に具体的な形になり，更にそこから深まることが多い。**ここでは，描く場所に対してどのような構図や色彩等で表現すれば，主題に近づけることができるか試行錯誤している様子や，制作が進む中で見られる能力の高まりを，アイデアスケッチから読み取ることが大切である。 創① 形や色彩などの表し方を生かし，主題を生み出すための自分の表現意図に合う表現方法を生かしたり着彩の順序などを考え見通しを持ちながら，創造的に表現している。【作品】
8	〈鑑賞〉 ●友人の作品から表現の意図や工夫などを感じ取ることができるようにする。 ・ワークシートに場所選定の意図や表現の工夫などを書く。 ・グループごとに，お互いの作品を鑑賞し，批評し合う。 評 なぜそう感じたのかを根拠を持ってワークシートに記述しているか，他者の作品のよさに気付いているかを見取る。そのためにの〔共通事項〕などの視点から，再度作品を鑑賞し，自分の価値意識を確認することも大切である。	○			○	関③ 色彩の特徴や空間の雰囲気などから，対象のよさや美しさ，作者の心情や意図を感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。【鑑賞の様子】 鑑① 色彩の特徴や空間の雰囲気などから，対象のよさや美しさ，作者の心情や意図を感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。【ワークシート，発言内容】
〈授業外〉	◇完成作品からの評価 ◇ワークシートからの評価		○	○	○	発② 創① 鑑① 評 発②，創①については，完成作品から再度評価し，授業内での評価を確認し，必要に応じて修正する。

5）本時の学習（1／8～2／8）

① 本時のねらい

校舎や教室などの場所を見つめ，感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち，主題を生み出すことができる。

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価【評価方法】
○参考作品を見ながら，どんな雰囲気を感じるか，どのような部分に魅力を感じるかを，グループで話し合う。 指〔共通事項〕の視点を取り入れるなど，共通の視点を与えることで，話し合いが深まる。 指 一人一人の主題を言葉で表現することで，より明確にさせる。	◆「きれいだ」「すきだ」ではなく，色彩や，光や影，構図などに視点をしぼるようにうながす。 ◆どこを，どのように感じたのか根拠を持って意見交換ができるようにうながす。 ◆普段何気なく見ている校舎や教室も，光の具合や色彩，視点を変えることで，思いもよらない「よさ」「美しさ」を発見することができることをおさえる。	関① 校舎や教室などの場所を見つめ，感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心を持ち主体的に主題を生み出そうとしている。 【観察・ワークシート】 評 感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち，主体的に表現をしていこうとする意欲や態度を見取る。
何気なく見ている校舎や教室などの場所から，自分だけにしか見つけられない「よさ」を表現しよう。		
○課題の説明を聞く。 ○校内写真を数点見ながら，「自分だけにしか見つけられないよさ」のある場所を想起する。 ○時間を決め，場所を探す。 ○場所を決定した生徒は，ワークシートに記入する。 ○なぜそこに惹かれるのか，描きたいと思ったのかをグループで伝え合い，気付いたことをワークシートに記入する。 ○次時の活動内容を知る。	◆校内にあるものを思い出すために，写真を数点見せる。 指 校内写真は，場所のみを確認するだけにし，発想や構想の広がりを限定させないよう配慮する。 ◆校舎や教室などの場所から，感じ取った形や色彩の特徴や美しさなど，自分がその場所のどんな雰囲気を表現したいのか等を，ワークシートにまとめ，主題を明確にさせる。 ◆ワークシート等をもとに自分の価値意識を伝え合う中で，再度自分が場所から感じたことや表現したいことを確認させる。 指 伝え合う中でいろいろな考えに気付かせることが大切である。また，その考えを整理することを通じて，自分の考えを振り返り，考えを深めることも重要である。そのためには，それぞれの考え方の違いや特徴を確認し合うことも必要である。	発① 校舎や教室などの場所を見つめ，感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，考えたことなどを基に，感性や想像力を働かせて主題を生み出している。 【発言内容・ワークシート】 評 グループでの意見交換で感じたことなどを基に，自分がその場所のどんな雰囲気を表現したいのか等をワークシートから見取る。

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を要すると判断される生徒への手立て
美術への関心・意欲・態度	・光や影，構図などから新たな表現があることに気づき，自分が描きたい場所に対する思いを膨らませ，主体的に主題を生み出そうとしている。	・自分が描きたい場所に対する思いを持ち，主体的に主題を生み出そうとしている。	・参考作品を見ながらグループで話した内容を想起させる。
発想や構想の能力	・光の具合や色彩，視点を変えることで，主題に近づくような表現方法を工夫し構想を練っている。 ・グループで話し合った意見を参考にしながら，光が差し込んでいる感じや風が吹いている様子，構図や着彩の方法を基に，自分の描きたい雰囲気を考えている。	・選んだ場所の光の具合や色彩，視点を変えるなどして，構想を練っている。 ・グループで話し合った意見を参考にしながら，自分の描きたい雰囲気を考えている。	・生徒の思いを聞き，形や色彩などがもたらす効果を確認し，主題を生み出す手立てを示す。 ・デジタルカメラや構図枠等を用いて，主題にあった構図の手立てとする。

保健体育

1 目標

心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また，個人生活における健康・安全について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯にわたって運動に親しむことを目指して，学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また，個人生活における健康・安全について，課題の解決を目指して考え，判断し，それらを表している。	運動の合理的な実践を通して，運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また，個人生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 改訂のポイント

○　生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うことを重視し，運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに，発達の段階のまとまりを考慮し，小学校，中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化を図る。

　指導内容の確実な定着を図る観点から指導内容を明確に示すとともに，学校段階の接続を踏まえ，第１学年及び第２学年においては領域の取り上げ方の弾力化を図る。また，第３学年においては特性や魅力に応じた選択のまとまりから選択して履修できるようにする。

○　体力の向上を目指し，「体つくり運動」の一層の充実を図るとともに，学校の教育活動全体や実生活で生かすことができるようにする。

○　基礎的な知識の確実な定着を図るため，発達の段階を踏まえて知識に関する領域の構成を見直し，各領域に共通する内容に精選するとともに，各領域との関連で指導することが効果的な内容については，各領域で取り上げるよう整理する。

○　保健分野においては，個人生活における健康･安全に関する内容を重視し，指導内容を改善する。

○　健康の保持増進のための実践力の育成のため，自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力を育成する観点から，系統性のある指導ができるよう内容を明確にする。

4 評価規準と展開例

1）単元名　第２学年　球技　ゴール型「サッカー」

2）単元のねらい

・分担した役割を果たそうとしたり，作戦などについての話合いに参加しようとするなどサッカーの学習に積極的に取り組むことができる。【運動への関心・意欲・態度】

・ボール操作やボールを持たないときの動きのポイントを見つけたり，自己の課題やチームの課題を見つけたりすることができる。【運動についての思考・判断】

・ボール操作と空間に走り込むなどの動きやボールを持っている相手をマークする動きによってゴール前の攻防を展開することができる。【運動の技能】

・技術の名称や行い方，試合の行い方などを理解することができる。【運動についての知識・理解】

「国立教育政策研究所の評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」保健体育の球技１，２年生の設定例を参考に，各学年における指導内容を整理し，２年間を見通した「学習活動に即した評価規準」を設定する。

3）単元の評価規準

【学習活動に即した評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
①サッカーの学習に積極的に取り組もうとしている。 ②作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ③仲間の学習を援助しようとしている。	①ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。 ②自己やチームの課題を見つけている。	①ゴール前での攻防を展開するためのボール操作とゴール前の空いている場所に走り込む動きや，守備の際にはボールを持っている相手をマークする動きができる。	①技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。 ②試合の行い方について，学習した具体例を挙げている。

4）指導計画と評価計画（9 時間）

① 学習過程と評価機会とその方法

【関・意・態】【技能】 □指導機会 ○評価

次		第１次	第２次							第３次
			【ねらい１】 ・ボール操作や攻撃のための空間づくりを意識しながら，作戦や戦術を工夫してゲームを行う。				【ねらい２】 ・対戦チームや自分たちのチームの課題に応じた作戦を立ててゲームを行う。			
		1	2	3	4	5(本時)	6	7	8	9
学習活動	10	オリエンテーション	準備運動・集合・挨拶・健康観察・課題の確認・ねらいや流れの確認							
	15	・サッカーの特性の理解	基本的ボール操作の練習（スキルテスト）		作戦タイム		チーム別練習（スキルテスト）			（スキルテスト）
	20	・学習の進め方の確認			シュート練習					
	25	・学習カードの活用の仕方を理解する。	作戦タイム				作戦タイム			
	30		6 対 6 のゲーム		ダブルボックスでの 6 対 6 のゲーム		11 対 11 の試合			
	35	・チーム編成をする。								
	40	・スキルテスト								
	45	・ためしのゲーム	片付け・反省とまとめ・挨拶							

評価方法										
関・意・態	□1	① □2	②	□3	③	③				
思・判				②	①	①		②		
技能		□1	①	①		□1	①	①	①	
知・理	①						②		②	

評「運動の技能」「運動への関心・意欲・態度」における評価は，技能の獲得や運動についての知識・理解をしてから意欲や態度等に現れるまでに一定の学習機会が必要になること，主に観察によって評価を行うことから，指導後に一定の学習期間及び評価期間を設ける工夫が必要である。

② 指導と評価計画

指 動きの理解や技能の習得の際に，つまずきが生じた場合は，その原因や解決方法を探っていくことができるよう時間をとって指導する。

時間	学習のねらい	おもな学習活動	評価規準（評価方法）
1	○技術の名称について理解する。 ○学習に積極的に取り組もうとすることの重要性を理解する。	・オリエンテーション ・スキルテストを行う。 ・ためしのゲーム（11 対 11）を行う。	○技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。 【知識・理解①】（観察・学習カード）
2	**ねらい１** **基本的なボール操作や攻撃のための空間づくりを意識しながら，作戦や戦術を工夫してゲームを行う。**	・基本的ボール操作の練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・パスとドリブルでボールを進める 6 対 6 のゲームを行う。	○学習に積極的に取り組もうとしている。 【関・意・態①】（観察・学習カード）
3	○基本的なボール操作を身につける。 ○自分や仲間の考えを伝え合うことの重要性を理解する。	・スキルテストを行う。 ・基本的ボール操作の練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・パスとドリブルでボールを進める 6 対 6 のゲームを行う。	○ゴール前での攻防に必要な基本的なボール操作ができる。 【技能①】（観察・スキルテスト） ○作戦などについての話合いに参加しようとしている。 【関・意・態②】（観察・学習カード）
4	○仲間の学習を援助することの重要性を理解する。 ○基本的なボール操作を身につける。 ○自己やチームの課題を見つける。	・作戦を話し合う。 ・友達と協力してシュート練習を行う。 ・ダブルボックスのゲームを行う。	○ゴール前での攻防に必要な基本的なボール操作ができる。 【技能①】（観察） ○自己やチームの課題を見つけている。 【思・判②】（観察・学習カード）
5 本時	○仲間の学習を援助する。 ○空間に仲間と連携して入り込み，シュートをするポイントを見つける。	・作戦を話し合う。 ・友達と協力してシュート練習を行う。 ・ダブルボックスのゲームを行う。	○仲間の学習を援助しようとしている。 【関・意・態③】（観察・学習カード） ○ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるためのポイントを見つけている。 【思・判①】（観察・学習カード）
6	**ねらい２** 対戦チームや自分たちのチームの課題に応じた作戦を立ててゲームを行う。 ○ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるためのポイントを見つける。	・スキルテストを行う。 ・提示された練習内容を理解し，自己のチームにあった練習内容を選択する。 ・チーム別練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・ゴール前の空間を生かした 11 対 11 のゲームを行う。	○仲間の学習を援助しようとしている。 【関・意・態③】（観察・学習カード） ○ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるためのポイントを見つけている。 【思・判①】（観察・学習カード）

指 評価規準を整理した上で，指導内容と評価規準を確認する。

評「作戦盤」「学習カード」を活用することで，言語活動の充実を図る。

指 運動への関心・意欲・態度面についてもそれぞれの重要性を理解させた上で評価を行う。

指 評 意欲を育むための知識について指導し，練習や試合の場面で評価する。

	○ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前の攻防を展開することができる。		
7	○ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前の攻防を展開することができる。 ○試合の行い方について学習する。	・提示された練習内容を理解し，自己のチームにあった練習内容を選択する。 ・チーム別練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・ゴール前の空間を生かした11対11のゲームを行う。	○ゴール前での攻防を展開するためのボール操作とゴール前の空いている場所に走り込む動きや守備の際のボールを持っている相手をマークする動きができる。　【技能①】(観察) ○試合の行い方について，本時のまとめにおいて，学習した具体例を挙げている。 【知・理解②】(観察・学習カード)
8	○自己やチームの課題を見つける。 ○ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前の攻防を展開することができる。	・提示された練習内容を理解し，自己のチームにあった練習内容を選択する。 ・チーム別練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・身に付けた技能や戦術を生かした11対11のゲームを行う。	○自己やチームの課題を見つけている。 【思・判②】(観察・学習カード) ○ゴール前での攻防を展開するためのボール操作とゴール前の空いている所に走り込む動きや守備の際のボールを持っている相手をマークする動きができる。　【技能①】(観察)
9	○試合の行い方について学習した具体例を挙げる。	・スキルテストを行う。 ・チーム別練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・身に付けた技能や戦術を生かした11対11のゲームを行う。	○ゴール前での攻防を展開するためのボール操作とゴール前の空いている場所に走り込む動きや，守備の際にはボールを持っている相手をマークする動きができる。 【技能①】(観察・スキルテスト) ○試合の行い方について，本時のまとめにおいて，学習した具体例を挙げている。 【知識・理解②】(観察・学習カード)

5）本時の学習

評 本時では，運動への関心・意欲・態度について評価を行う。運動についての思考・判断の評価については，前時で評価をしているが評価しきれなかった部分や際だったものについてだけ評価する。

① 本時のねらい

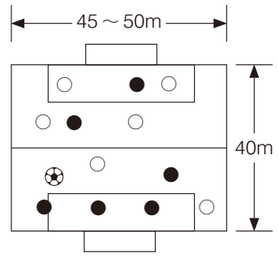
○ 練習やゲームの際，仲間の練習を補助したり仲間に助言したりして取り組んでいる。

【運動への関心・意欲・態度】

○ 空間に仲間と連携して走り込み，シュートをするポイントを見つける。

【運動についての思考・判断】

② 本時の展開

過程 時間	学習活動	○教師の支援　☆評価の視点【観点】(方法)
10分	1. 集合，整列，挨拶，健康観察 2. 準備運動 3. コート，用具の準備 4. 本時の目標・学習内容を知る 指 学習課題を明確にすることで，学習の見通しがもてるようにする。	○素早く移動して，準備にとりかかっているチームを認める。 ○本時の目標が確認しやすいように，作戦盤を用意する。 ○見通しを持って学習できるように，学習の進め方を掲示しておく。 指 授業の終わりに，チームの振り返りを行うことを伝え，他者への関心を高める。
30分	5. 技術のポイントの説明を聞く。  6. 作戦盤を使って，シュートに結びつく空間の作り方とその練習方法を話し合う。 7. 話合いを生かしたシュート練習を行う。 8. ボックスゲームを行う(6対6) (ボックスゲームとはミッドフィールドを無くしたコートによって，ゴール前での攻防をより多く展開できるようにしたものである。)	○本時のねらいが確認しやすいように，作戦盤を使って説明する。 指 作戦盤をつけて，視覚的に示すことにより理解を深め，チーム別の話合い時の充実を促す。 ○各チームの話合いを観察し，作戦盤を使ってシュートに結びつく空間の作り方の例を示しながら助言する。 ○シュートをねらうための，ポジショニングと強いシュートのうち方について助走や踏み込み，足首の固定等について助言する。 ○仲間と連携し，ゴール前に空間を作り出し攻撃するよう助言する。 ☆練習やゲームの際，仲間の学習を援助しようとしている。 【関・意・態】(観察) 評 4時間目に「練習の際，互いに練習相手になったり，仲間に助言したりして，取り組むこと」について学習し，4時間目から6時間目までを評価期間とする。
10分	9. 整理運動，用具の片付けを行う。 10. 本時のまとめを行う。 ・チームで課題の確認を行い，本時の学習記録をまとめる。 ・教師の評価を聞く。 ・健康観察と次時の連絡を聞く。 11. 挨拶，解散。	指 前時で学習した運動の行い方のポイントを提示し，話し合いの内容を空間に走り込みシュートすることに絞る。 ○チームの話合いの内容を確認し，必要に応じて助言する。 ○練習時やボックスゲーム時の各チームの良い動きや発言を賞賛し，広めるようにする。 ○本時の目標の反省と評価項目の内容を学習カードに記入させる。

空間に仲間と連携して走り込み，シュートをするポイントを見つけよう！

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への支援
運動への関心･意欲･態度	・練習の際，自主的に互いに練習相手になったり，仲間に助言したりして取り組もうとしている。 ・それぞれの個性や立場を尊重して，前向きな助言によりゲームの志気を高めようとしている。	・練習の際，互いに練習相手になったり，仲間に助言したりして取り組もうとしている。 ・前向きな助言によりゲームの志気を高めようとしている。	・お互いに助け合うことは，相互の信頼関係を高めたり，課題解決に役立ったり，自主的な活動を行いやすくすることなどを説明し，声がけをする。
運動についての思考・判断	・自分やチームの特徴を踏まえ，ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動のポイントを見つけている。	・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動のポイントを見つけている。	・うまくいかない原因を説明し，作戦盤やビデオ等を活用して，運動のポイントを明らかにする。

技術・家庭（技術分野）

1 技術分野の目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め，技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
趣旨	材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術について関心をもち，技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために，主体的に技術を評価し活用しようとする。	材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに，その解決のために工夫し創造して，技術を評価し活用している。	材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術についての基礎的・基本的な知識を身に付け，技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。

3 改訂のポイント

○　技術分野では，現代社会で活用されている多様な技術を「A 材料と加工に関する技術」「B エネルギー変換に関する技術」「C 生物育成に関する技術」「D 情報に関する技術」の４つの内容に整理し，すべての項目を履修させる。

○　指導を体系的に行うために，小学校での学習を踏まえるとともに，中学校での３学年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な項目［A（1）生活や産業の中で利用されている技術］を第１学年の技術分野の最初に履修させる。

○　すべての内容において，技術にかかわる倫理観や新しい発想を生み出し，活用することの価値に気付かせるなど，知的財産を創造・活用しようとする態度の育成に配慮する。

○　知識及び技術を活用して生活における課題を解決する能力を育む観点から，ものづくりに関する様々な語彙の意味を実感を伴って理解する学習活動や言葉･図表及び概念などを用いて考えたり，説明したりする学習活動を充実する。

ものづくりの経験	技術に関する概念　→　思考で利用できる
設計や計画の場面	技術特有の言語（製作図，栽培･飼育計画表，フローチャート）→　考えを整理し，より良いアイディアを生み出す

4 評価規準と展開例

1）題材名　プランターを使った生物育成〔内容 C　生物育成に関する技術　15 時間〕

2）題材のねらい

生物育成に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに，生物育成に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め，それらを適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

3）題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
生物育成に関する技術に関わる倫理観を身に付け，知的財産を創造・活用しようとするとともに，生物育成に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。	目的や条件に応じて栽培計画を立て，観察を通してとらえた成長の変化への対応を工夫するとともに，生物育成に関する技術を適切に評価し活用している。	生物の適切な管理作業ができる。	生物を取り巻く生育環境が生物に及ぼす影響や，生物の育成に適する条件及び生物の計画的な管理方法等についての知識を身に付け，生物育成に関する技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。

『評価規準の作成のための参考資料（国立教育政策研究所）』の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にして設定するとよい。

4）題材の指導計画と評価計画（全 15 時間）

時間	学習内容	評価規準，評価方法（□）			
		生活や技術への関心･意欲･態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技能についての知識･理解
1〜5	○栽培の基本的な事項，春まき野菜の栽培計画の立て方を知る。 ○春まき野菜の管理作業を行う。		紙面の都合で省略		
6〜8	○作物を収穫し，栽培結果をまとめる。 ・栽培計画が良かったか，問題点がなかったかを振り返る。 ○秋まき野菜の栽培計画を立てる。 ・春まき野菜栽培での反省点を生かして計画を立てる。 **指** 春まき野菜で基礎的・基本的な知識・技術の習得をし，秋まき野菜で管理栽培の計画と実践を行うことで，習得した知識と技術の活用を行う展開例である。	【関・意・態】環境に対する負荷の軽減や安全に配慮して栽培方法を検討しようとしている。 □取組の様子 □ワークシート □発言 【工・創】栽培する生物の育成に必要な条件を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面から，種類，資材，育成期間などを比較・検討したうえで，目的とする生物の育成に適した管理作業などを決定できる。　□ワークシート □発言			
9 10	○秋まき野菜の管理作業を行う。 ※栽培計画をもとに，家庭で栽培を継続する。		紙面の都合で省略		
11〜14	○現在の日本の農業の現状と新技術について学習する。 （有機栽培，バイオテクノロジーを使った栽培，室内での養液栽培） ○露地栽培と有機栽培について比較・検討する。 ○露地栽培とバイオテクノロジーを使った栽培について比較・検討する。 ○露地栽培と養液栽培について比較・検討する。 **指** 生徒の考えを広げるために，自分の考えをまとめたうえで，グループでの情報交換を行い見方・考え方を広げる。	【関・意・態】現在の農業の課題について把握し，社会と新技術とのつながりに気付くことができる。生物育成に関する技術にかかわる倫理観を身に付け，知的財産を創造・活用しようとしている。社会的，環境的及び経済的側面からそれぞれの技術を比較・検討しようとする。 □話し合いの様子 □発言 □ワークシート 【工・創】社会的，環境的及び経済的側面からそれぞれの技術を比較･検討し，自分なりの考えをもつことができる。 □発言 □ワークシート □自己評価シート 【知・理】現在の農業の課題と関連する新技術について理解し，説明できる。それぞれの技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解し，説明できる。 □ワークシート □発言 **評** 露地，有機，バイオテクノロジー，養液栽培について理解させるとともに，それぞれの栽培方法の利点と問題点について，社会的，環境的及び経済的側面から考えているかどうかを評価する。			

15 本時	○生物育成に関する技術について，考えをまとめる。 「料亭に野菜を納入したい。おいしくて，いつも安定して納入できるようにしたい。どんな技術を使って生産しますか。」	【工・創】社会的・環境的及び経済的側面から生物育成に関する技術を比較・検討するとともに，適切な解決策を見い出すことができる。 □発言 □ワークシート □自己評価シート 【知・理】生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解し，説明できる。 □ワークシート

5）本時の学習

指 生物育成に関する基礎的・基本的な学習内容及び４つの栽培方法の知識・技能を生産者・消費者の立場から生かすことができるように，日常生活に関連した課題を設定し，生活を工夫し創造する能力を養う。

① 本時のねらい

○ 生物育成に関する技術の課題を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などからを比較・検討するとともに，適切な解決策を見い出すことができる。 【生活を工夫し創造する能力】

○ 生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解する。

【生活や技術についての知識・理解】

② 本時の展開（15 ／ 15 時間）

学習活動	教師の支援	評価等
1 学習のめあてを確認する。 「今まで学習してきた栽培に関する技術の知識・技能を実際の生活場面でどのように活用できるかを考えてみよう。」	・学習課題について関心をもたせ，意欲を高められる導入の工夫をする。	
2 ４つの栽培方法について振り返る。 （露地栽培，有機栽培，バイオテクノロジーによる栽培，室内での養液栽培）	・どの技術も利点と改善点があることを確認し，改善点を克服するために新しい技術が生まれてきたことを意識させる。	
3 学習課題を考える。 「料亭に野菜を納入したい。おいしくて，いつも安定して納入できるようにしたい。どのような技術を使って生産しますか。」 指 生徒が作り手として考えられる場面を設定し，評価し活用する場面を設定することが大切である。 ・自分の考えをワークシートに記入する。 指 自分の考えがどのような根拠に基づき決定したのかを書くことで，考えを整理し，問題がないかを検討することができる。	・学習した栽培方法を総合的に振り返り，自分なりの考えをまとめることを伝える。 ・条件を把握し，既習事項を活用するよう意識させる。（おいしい，安定など） ・比較・検討した視点（社会的・環境的及び経済的側面など）を意識させる。 ・机間指導を行い，理由付けができるように個々の生徒に応じた助言を行う。	評 基礎的・基本的な知識を盛り込んだ考えができているかどうかを確認する。
4 グループ内・学級内で情報交換を行い，考えを深めたり，広げたりする。 指 友だちに話すことで，より自分の考えを整理できる。友達のワークシートを読んだり，考えを聞いたりすることで，その思考の追体験ができたり情報を広げたりすることができる。	・優先したい技術と選択した理由も含めて説明できるように手助けする。 ・様々な視点から考えを見直せるように，参考となる意見を取り上げ，全体の中で発表させる。	自分の思考の流れを書き込めるワークシート 発言
《考える条件》 「育成環境や生産者の利益を考えよう。」 「エネルギーや資源・自然環境に与える負荷はどうだろう。」 「安全性や消費者の立場で考えてみよう。」 「自然環境へ与える影響について考えてみよう。」 指 考える条件に負荷を与えることで，考えを深めることができる。	・考える条件に負荷を与える。 ・自分の思考を再考するきっかけとなった情報，参考となった考え方をワークシートに記入させる。 評 ワークシートを工夫し，再考するきっかけとなった情報，参考となった考え方を記入するスペースを作っておく。ワークシートの記述から思考の流れがわかるようにしておくと，工夫し創造する能力を評価する際に活用できる。	
5 最適解を求める。 「発表を聞いて，もう一度自分の考えを見直してみよう。」 ・各自の考えをワークシートに記入する。 指 情報交換をすることで得られた様々な視点や立場からの見方・考え方を整理するとともに，自分の考えを改めて確認・修正ができる。	・具体的な方策を提言できるよう，自分たちの生活を意識したうえで考える。 ・机間指導をし，整理の状況を把握し，不十分な時は生産者の立場など具体的に自分の立場として考えさせる。	自分の思考の流れを書き込めるワークシート ■生活や技術についての知識・理解 ■生活を工夫し創造する能力
6 学習の振り返りと自己評価 ・生活の中で生かせる生物育成に関する技術について考える。	・感想にとどまることなく，自分が一番大切にしたいと考えたことなどを記入させる。 評 一番大切にしたいと考えたことを書かせることにより，生徒の意識が見取ることができる。	

③ 本時の評価

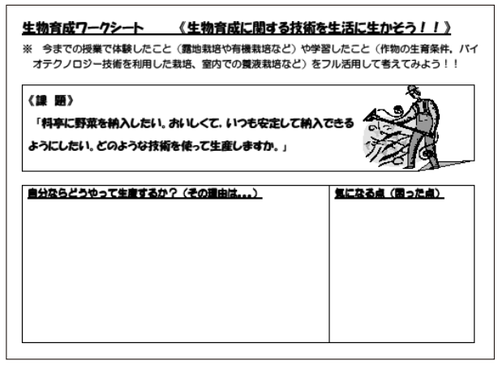
【生活を工夫し創造する能力】

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
生物育成に関する技術の課題を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などからを比較・検討するとともに，季節などによって栽培方法を変えて考えることができる。	生物育成に関する技術の課題を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などからを比較・検討するとともに，適切な解決策を見い出すことができる。	生産者として，それぞれの栽培方法のメリット・デメリットを確認し，年間を通じて供給するという視点で考えるように指導する。

【生活や技術についての知識・理解】

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解し，説明できる。	生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解している。	生産者として，それぞれの栽培方法のメリット・デメリットを簡潔にまとめられるように指導する。

④ ワークシートの工夫


生物育成ワークシート　《生物育成に関する技術を生活に生かそう！！》

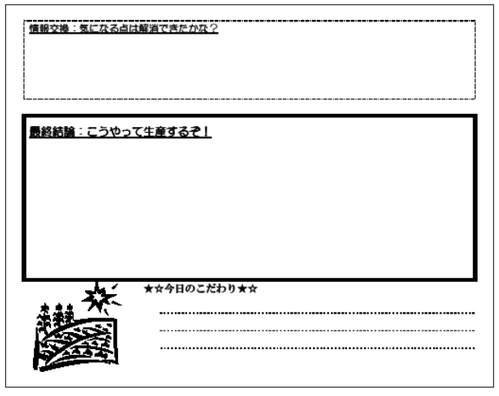
※ 今までの授業で体験したこと（露地栽培や有機栽培など）や学習したこと（作物の生育条件，バイオテクノロジー技術を利用した栽培、室内での養液栽培など）をフル活用して考えてみよう！！

《課 題》

「料亭に野菜を納入したい，おいしくて，いつも安定して納入できるようにしたい，どのような技術を使って生産しますか。」

自分ならどうやって生産するか？（その理由は…）

気になる点（困った点）


情報交換：気になる点は解消できたかな？

最終結論：こうやって生産するぞ！

★☆今日のこだわり★☆

技術・家庭（家庭分野）

1 家庭分野の目標

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して，生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，家庭の機能について理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
趣旨	衣食住や家族の生活などについて関心をもち，これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し，課題を見付け，その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し，生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

3 改訂のポイント

○　小学校の内容との体系化を図り，中学生としての自己の生活の自立を図る視点から，「A 家族・家庭と子どもの成長」，「B 食生活と自立」，「C 衣生活･住生活と自立」，「D 身近な消費生活と環境」の 4 つの内容で構成する。

○　内容 A から D をすべての生徒に履修させる。ただし,「生活の課題と実践」に関する指導事項［A（3）エ，B（3）ウ，C（3）イ］は 1 又は 2 事項を選択して履修させる。また，小学校での学習を踏まえ中学校での 3 学年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な項目［A（1）自分の成長と家族］を第 1 学年の家庭分野の最初に履修させる。

○　内容 A においては，幼児への理解を深め，子どもが育つ環境としての家族と家庭の役割に気付く幼児触れ合い体験などの活動を重視する。

○　内容 B においては，食生活の自立を目指し，中学生の栄養と献立，調理や地域の食文化などに関する学習活動を充実する。

○　内容 C においては，布を用いた物の製作を設けるなど，衣生活や住生活などの生活を豊かにするための学習活動を重視する。

○　内容 D においては，消費者としての自覚や環境に配慮した生活の工夫などに関わる学習について，中学生の消費行動の変化を踏まえた実践的な学習活動を重視する。

○　知識及び技術を活用して生活における課題を解決する能力を育む観点から，衣食住やものづくりに関する様々な語彙の意味を実感を伴って理解する学習活動や言葉や図表及び概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの実践的な学習活動を充実する。

・調理，製作，幼児と触れ合う活動などの実習を行った後に，体験から感じ取ったことや気付いたことをまとめたり，その結果を整理し考察したり，共有したりするなどの学習活動

・衣食住などに関する知識や概念などを用いて課題を解決する方法を考えたり，生活の中の様々な情報を言葉や図表等にまとめて分析し，根拠に基づいて説明したりするなどの学習活動

4 評価規準と展開例

1）題材名　スパゲッティミートソースの調理と 1 日分の献立

2）題材のねらい

スパゲッティミートソースの調理や献立作成などを通して，日常食の調理や献立に関心をもち，食品の選択や 1 日分の献立，調理についての基礎的･基本的な知識及び技術を習得するとともに，これからの食生活をよりよくするための工夫ができるようにする。

3）題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
スパゲッティミートソースの調理や，献立に関心をもって学習活動に取り組み，食生活をよりよくしようとしている。	スパゲッティミートソースの調理や，献立と食品の選び方について課題を見付け，その解決を目指して工夫している。	スパゲッティミートソースの調理や，食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	スパゲッティミートソースの調理や，食品の選び方と 1 日分の献立に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

評「題材の評価規準」と「学習活動に即した評価規準」は，『評価規準の作成のための参考資料（国立教育政策研究所）』の「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にして設定するとよい。

4）題材の指導計画と評価計画（全 9 時間）

時間	○ねらい　・学習活動	評価規準・【評価方法】 生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
1	○肉の品質の見分け方や調理上の性質，衛生的な扱い方を理解する。 ・ひき肉の衛生的な扱い方や調理の要点についてまとめる。 ・示範によりミートソースの調理について確認する。				①肉の調理上の性質について理解している。 ②肉の加熱調理の要点について理解している。 ③肉や調理用具の安全と衛生に留意した取扱い方について理解している。 **【ワークシート】** **【*ペーパーテスト】**
2	○生鮮食品と加工食品の特徴や種類，保存方法について理解し，食品の表示の意味や良否の見分け方がわかる。 ・生鮮食品と加工食品について調べる。				④生鮮食品と加工食品の特徴を理解するとともに，表示の意味や良否の見分け方について理解している。 **【ワークシート】** **【*ペーパーテスト】**
3	○ミートソースの品質を見分けるために必要な情報を収集・整理し，用途に応じた選択について考えることができる。		①用途に応じたミートソースの選択について,収集･整理した情報を活用して考え,工夫している。	①ミートソースを選択するために必要な情報を収集・整理することができる。	⑤ミートソースの選択における観点について理解している。

指 実感を伴った理解を深める実践的・体験的な学習活動を充実する。その際，生徒の発達の段階や学習のねらいを考慮するとともに，製作，調理などの実習や，観察･実験，見学，調査･研究などにおいてなぜ，そのようにするのか，どういう意味があるのかなどを考えさせる指導の工夫が必要である。

	・加工食品のミートソースの表示や費用などの情報を収集・整理し，ミートソースを調理した場合と比較する。		【行動観察】 【ワークシート】	【ワークシート】 【＊ペーパーテスト】	【ワークシート】 【＊ペーパーテスト】
4	○スパゲッティミートソースを主食，主菜とする１食分の献立を考えることができる。 ・栄養のバランスや食品の組み合わせを工夫して１食分の献立を考える。 ・各自で考えた献立をグループで発表し合い，相互評価を基に献立を見直し，修正する。		②栄養のバランスや食品の組み合わせを考え，スパゲッティミートソースを主食，主菜とする１食分の献立を工夫している。 【ワークシート】		
5	○スパゲッティミートソースを主食，主菜とする１食分の献立の調理計画を立てることができる。 ・調理に必要な手順や時間を考え，工夫する。		③スパゲッティミートソースを主食・主菜とする１食分の献立の調理に必要な手順や時間を考え，調理計画を工夫している。 【調理計画】 【実習記録表】		
6 7	○肉の衛生的な扱いに留意し，スパゲッティミートソースを主食，主菜とする１食分の献立の調理ができる。 ・計画に基づき，実習する。 ・実習を振り返り，感想を発表する。	①スパゲッティミートソースの調理に関心をもち，調理技術を習得しようとしている。 ②肉などの食品や調理用具の安全と衛生に配慮し，調理実習で実践しようとしている。 【行動観察】 【調理計画】 【実習記録表】		②肉の衛生的な扱いに留意し，調理の目的や食材に合った切り方，加熱調理ができる。 ③調理用具や調理用熱源の適切な管理ができる。 【行動観察】 【写真】	
8 9 （本時）	○料理や食品の組合せを工夫し，中学生に必要な栄養を満たす１日分の献立を考えることができる。 ・「休日の食事調べ」から問題点を見付ける。 ・昼食をスパゲッティミートソースの献立として，休日の食事を改善するための１日分の献立を作成する。	③中学生の１日分の食事のとり方に関心をもち，必要な栄養量を満たす食事のとり方をしようとしている。 【行動観察】 【ワークシート】			⑥中学生に必要な栄養量を満たす１日分の献立の立て方について理解している。 ＊ペーパーテスト
	・各自が考えた献立をグループで評価し合い，気付いたことをまとめる。 ・献立を見直し，修正する。		④中学生の１日分の献立について，必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせを工夫している。 【ワークシート】		

技術・家庭（家庭分野）

指 「B 食生活の自立」の（3）「日常食の調理と食文化」アについては，生徒の実態に合わせた題材を設定し，魚，肉，野菜を中心に日常よく用いられる食品を取り上げ，基礎的な日常食の調理ができるようにする。

評 「B 食生活の自立」の（3）「日常食の調理と食文化」アについては，段階的に学習できるよう計画し，重点を置く調理操作について評価規準を設定する。

評 「生活や技術への関心・意欲・態度」の評価について
授業中の発言や挙手の回数で安易に評価することがないよう留意するとともに，事前に生徒の興味・関心の状況を把握しておき，ある程度長い区切りの中で生徒の変容を評価する等の工夫を行うことが大切である。

指 食事調べなど生徒の家庭での食事を取り上げる場合には，生徒のプライバシーに十分配慮する。

評 「生活を工夫し創造する能力」の評価について
・課題の解決を目指して工夫するその過程を含めて評価することが重要である。
・言語活動を中心とした表現に係る活動等を通じて行うことから，生徒が考えたり工夫したりしたことを図や言葉でまとめたり，発表したりするなどの活動を通して評価することに留意する。

指 学習した知識及び技術を生活に活用できるよう問題解決的な学習を充実する。題材ごとあるいは１単位時間の授業で，「見つめる　つかむ　追究する　生かす」など，問題解決的な学習の指導過程を工夫する。

＊ペーパーテストについては，ある程度のまとまりごとに実施する。

※「『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校技術・家庭）』（国立教育政策研究所）」を参考に作成

5） 本時の学習（9 ／ 9 時間）

① 本時のねらい

・中学生の１日分の献立について，必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせを工夫する。

【生活を工夫し創造する能力】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	☆評価　○教材
1　前時までの学習を振り返る。	・「休日の食事調べ」から課題（問題点）を見付け，改善するための１日分の献立ができているか確認させる。	
2　本時のめあてを知る。 休日の食事を改善するための１日分の献立を再検討しよう。	**指** 見付けた課題（問題点），改善の方法，何を根拠として献立を考えたのかをワークシートに記入することで，考えを整理させる。	
3　グループで自分の考えた献立を発表し，献立を評価し合う。 ・中学生の１日に必要な食品群別摂取量の目安を満たす献立になっているか。 ・栄養を考えた食品の組み合わせを工夫しているか。 ・主食，主菜，副菜，汁物などの料理の組み合わせは工夫されているか。 ・旬の食材や地域の食材を取り入れているか。 ・その他〔し好，調理法，費用など〕	・ワークシートをもとに，考えた献立を発表させる。それぞれの献立についてアドバイスし合うことを伝える。 **指** 献立を評価する観点を明確にして，話合いをさせる。	■評価規準（工夫・創造④） 中学生の１日分の献立について，必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせを工夫している。 **評** 結果としての工夫だけではなく，課題の解決を目指して，思考する過程を含めて評価することから，ワークシートは，生徒が思考する過程を把握できるよう記入欄を工夫する。
4　話合い活動をもとに，各自の献立を修正する。	・自分の献立に対するアドバイスや，友だちの献立のよかったところを参考にさせる。 ・献立の修正が進まない生徒には，食品群を確認させたり，調理方法の例を示したりして考えさせる。	
5　修正した献立を発表する。		■評価方法 【ワークシート】
6　本時の感想をワークシートに記入し，今後の食生活に生かしたいことをまとめる。	・個々の献立の工夫を認め，今後の食生活に生かすよう助言する。	

③ 本時の評価【生活を工夫し創造する能力】

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への手立て
１日の献立を栄養量の過不足だけでなく，旬や地域の食材を選定するなど，その他の観点についても考えている。	中学生の１日の献立について，必要な栄養量と比較して過不足を判断し，不足している食品群を補うための食品を考えている。	食品群を確認させたり，調理法や食材の例を示したりして献立を考えることができるよう支援する。

技術・家庭（家庭分野）

外国語

1 目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする	外国語で話したり書いたりして，自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。

3 改訂のポイント

○　自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力，内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から，「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について，自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し，「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう，4 技能を総合的に（＝バランスよく）育成する指導を充実する。

○　指導に用いられる教材の題材や内容については，外国語学習に対する関心や意欲を高め，外国語で発信しうる内容の充実を図る等の観点を踏まえ，4 技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるように改善を図る。

○　「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の 4 技能の総合的な指導を通して，これらの 4 技能を統合的に（＝相互に関連づけて）活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに，その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ，文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。また，コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう，指導すべき語数を充実する。

○　中学校における「聞くこと」，「話すこと」という音声面での指導については，小学校段階での外国語活動を通じて，音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ，指導内容の改善を図る。併せて，「読むこと」，「書くこと」の指導の充実を図ることにより，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の四つの領域をバランスよく指導し，高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培う。

4 評価規準と展開例

1）単元名

第 1 学年　Unit 10 観光地から

評 教科書の場面が「サンフランシスコ」であっても，その場面に限定したねらいにするのではなく，「町や観光地」といったように，広く別の場でも能力が生かせるようにねらいを設定する。

評 単元の中心的なねらいには，「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」に関わる事項を設定する。また，文法事項などの言語材料ではなく，言語活動を目標の中心に設定する。

2）単元のねらい

・町や観光地を口頭で案内する。　【外国語表現の能力】
・ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話す。　【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
・助動詞 can，疑問詞 when を用いた文の構造を理解する。　【言語や文化についての知識・理解】

3）単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話している。 **（話すこと･言語活動への取組）**	①町や観光地を口頭で案内することができる。 **（話すこと･適切な発話）**	※本単元はこの観点では評価しない。	①助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 ②疑問詞 when を用いた文の構造を理解している。 **（書くこと･言語についての知識）**

評 評価の重点化を行う。ここでは，「話すこと」における「言語活動への取組」に絞っている。

評 場面や状況を具体的に絞る。評価規準と言語活動の設定に当たり，**言語の使用場面**や**言語の働き**を取り上げるようにする。ここでは，言語の使用場面は「町や観光地の案内」，言語の働きは「説明する」。（学習指導要領解説外国語編 p.20 ～ 28 を参照）

※評価の重点化については『参考資料』（国研）p.21 ～ 26，p.37 の表を参考にする

4）単元指導計画と評価計画

※ここでは観点別評価や評定につながる評価（総括的評価）に関わる部分を示している。

時	○ねらい　・主な学習活動	評価 関	表	理	言	主な評価規準（評価方法）
1	**○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。** ・warm-up として，can を使って教師が出題する国や観光地についてのクイズに答える。 ・本単元で身に付ける技能，理解する内容，行うタスクを知る。					指 "Hi, friends!2"Lesson5 Let's go to Italy. で出てきた写真や表現を用いるなどし，外国語活動の有用性を感じさせたり，学習への興味関心を高めたりする。
	○助動詞 can を用いた文の構造を理解する。 ・助動詞 can を用いた文の構造を知る。（肯定文，否定文） ・教科書本文を通して，can の使い方を理解する。 ・教科書本文から，町や観光地を案内するときに活用できる表現を探す。 ・教科書の内容をリプロダクションする。				①	助動詞 can を用いた文の構造を理解している。（後日ペーパーテスト）

指 ねらい，言語活動，教科書本文を関連付けて指導する。重要な文法事項や表現が教科書本文でどのように使われているのかに注目させる。

評 授業後など別の機会にも評価することもできる。

評 ターゲットとする能力を適切に見取る問題とし，関係のない間違いについては評価の対象としない。

	・can を用いた文を使えるように練習する。					
2	**○助動詞 can を用いた文の構造を理解する。** ・助動詞 can を用いた文の構造を知る。 （疑問文とその答え方） ・教科書本文を通して，can の使い方を理解する。 ・教科書本文から，町や観光地を案内するときに活用できる表現を探す。 ・教科書の内容をリプロダクションする。 ・can を用いた文を使えるように応答練習する。				①	助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 （後日ペーパーテスト）
3	**○疑問詞 when を用いた文の構造を理解する。** ・疑問詞 when を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して，when の使い方を理解する。 ・教科書本文から，町や観光地を案内するときに活用できる表現を探す。 ・教科書の内容をリプロダクションする。 ・when を用いた文を使えるように練習する。				②	疑問詞 when を用いた文の構造を理解している。 （後日ペーパーテスト）
4	**○町や観光地を案内する時の表現を理解する。** ・That' s ～ , Can you see ～ , Look at ～ , The name comes from ～など町や観光地を案内するときに使われる教科書の表現をまとめる。 ・他の表現について補足説明を聞き理解する。 ・教師が準備した町や観光地について，案内するときに使われる表現を用いて，ペアで案内の練習をする。 ・次時の案内に用いる写真等の資料を作成する。	①				ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話している。 （活動の観察）
5 （本時）	**○町や観光地を案内する練習をする。** ・ペアで町や観光地を案内し合う。 ・グループで町や観光地を案内し合う。 ・学級全体に対して町や観光地を案内する。	①				ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話している。 （活動の観察）
6	**○町や観光地を案内する。** ・ペアで町や観光地を案内する練習をする。 ・バスで観光地を巡っている場面を想定して，紹介する場所や相手を変えながら，他の生徒と自由に案内し合う。 ・上記の活動中に教師のところに来て，2 か所の町や観光地（1 か所は生徒が準備したもの，もう 1 か所は教師が提示した初見のもの）を案内する。		①			町や観光地を口頭で案内することができる。 （ダイアローグテスト）
後日	＜ペーパーテスト＞ □新しく転入してくるクラスメイトに対して，自分が上手にできることとできないことを紹介したり，相手にできるかどうかをたずねたりする表現を書く問題 □場面に合う適切な表現を書く問題 ＜帯活動等で＞ ・毎時間の授業の最初に生徒 1 人がオリジナルの資料を用いて，学級全体に対して町や観光地を案内する。 ・ペアで町や観光地の案内をする。				① ②	第 1 ～ 3 時の評価規準で （ペーパーテスト）

指 第 6 時の言語活動における生徒の具体的な姿をイメージし，そこで必要となる町や観光地の案内に用いる表現を含めて練習するようにする。

評「指導→十分な練習→自信を持つ」という過程を経てから評価を行う。

評 知識の定着を測る場合でも，言語の使用場面等に配慮するなどコミュニケーションを意識した問題で判定することを心がける。

評 外国語表現の能力「話すこと」は観察では見取れないため，評価する際には，生徒の発話内容をチェックする場面を設ける必要がある。

指 本単元で身につけた力を維持・向上させるために，本単元終了後一定期間経過した後や帯活動の時間で繰り返し扱うなど技能を活用する機会を設けることが大切である。

関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度
表：外国語表現の能力
理：外国語理解の能力
言：言語や文化についての知識・理解

5）本時の学習

① 本時のねらい

・ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話す。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

② 本時の展開

時（分）	学習活動	教師の支援	☆評価（評価方法）
3	**1 本時の目標と活動の流れを確認する。**	・本時の学習に見通しがもてるように，目標と活動の流れを提示する。	
	ガイド：町や観光地を積極的に案内して，旅行者にバスツアーを楽しんでもらおう。 旅行者：ガイドの案内を聞いたり，ガイドに質問したりして，町や観光地のことをたくさん知ろう。		
23	**2 ペアで町や観光地を案内し合う。** 案内に用いる資料は，生徒一人につき，教師が準備したもの 2 種類，生徒が準備したもの 1 種類の計 3 種類。 ・案内 1 回目と振り返り ・相手を替えて案内 2 回目と振り返り	・デモンストレーションをしながら活動の仕方を理解させる。 ・表面に町や観光地の写真等を，裏面に日本語による簡単な解説を記載した案内資料を生徒一人につき，2 種類配付する。 ・案内し合っている様子をそばで観察し，間違いを恐れずに発話しようとしているペアの発話の様子を学級で共有できるように紹介する。 ・本時の目標を踏まえて，振り返りの視点を示す。	**☆ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話している。（活動の観察）**
12	**3 グループで町や観光地を案内し合う。** ・4 人のグループ内で一人ずつ案内する。 ・友だちの案内の仕方でよかったところを評価し合う。	・次時の外国語表現の評価に係る間違いを発見したときにはメモしておき，本時の振り返りの際にまとめのところで指導する。 ・グループ活動終了後，互いのよかったところを評価させる。	
8	**4 全体の前で町や観光地を案内する。**	・教材提示装置を用いて，案内役の生徒の資料が全体に見えるようにする。 ・学級全体に対して案内した生徒のよかったところを全員に伝える。	
4	**5 本時の活動を振り返る。** ・自分のよかったところ ・うまく表現できなかったこと ・修正すべき間違い	・生徒の活動全体を通して，よかったところを具体的にあげて確認することで，生徒の次時への意欲を高めるようにする。 ・修正すべき間違いについて確認する。	

指 案内する人と案内される人の間にインフォメーションギャップがあることが必要。（ペアで異なる資料を用いる。）また，外国語で発信しようとする関心・意欲を高めるため，生徒オリジナルの資料も用いるようにしたい。

指 振り返りにより言語活動の質的向上と生徒の意欲の向上を図る。

評 ペアワークで見取れなかった生徒を見取ったり，支援を行った生徒のその後の様子を見取ったりする。

評
・実際に活動中に見取れる生徒の具体的な姿を評価規準にする。
・コミュニケーションに取り組んでいる様子を評価し，そこで用いられている英語の正確さや適切さなどの運用上の能力は評価しない。

指 ペア，グループ，全体と活動をステップアップさせながら，十分に練習させ，表現の能力を育成する（次時のダイアローグテストで見取る）。

③ 本時の評価

	おおむね満足と判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワークにおいて，間違うことを恐れずに話している。	そばに寄り添い，一緒に案内をする。また，第 4 時にまとめた表現を参照させつつも，本時は正確さより積極性が大切であることを伝えて意欲を高めるようにする。

評 評価の仕方の例
◇第 4 時と第 5 時のペアワークで英語を用いて話しているかどうかを観察し，
・話している場合，○
・話していない場合，×　　とする。
◇2 回の評価結果で，
・○が 2 つなら「十分満足できる」状況（A）
・○が 1 つなら「おおむね満足できる」状況（B）
・×が 2 つなら「努力を要する」状況（C）　　とする。

道徳

1 目標

学校における道徳教育は，学校の教育活動全体を通じて，道徳的な心情，判断力，実践意欲と態度などの道徳性を養うことが目標とされている。

道徳の時間においては，この道徳教育の目標に基づき，各教科，総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によってこれを補充，深化，統合し，道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践力を育成するものとする。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	道徳的心情	道徳的判断力	道徳的実践意欲と態度	道徳的習慣
趣旨	道徳的に望ましい感じ方，考え方や行為に対して，逆に，道徳的に望ましくない感じ方，考え方や行為に対して，生徒がどのような感情をもっているか。	道徳的諸価値についてどのようにとらえているか，また，道徳的な判断を下す必要がある問題場面に直面した際に，生徒がどのように思考し判断するか。	学校や家庭での生活の中で，道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが，どれだけ芽生え，また定着しつつあるか。	特に基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているか。

3 改訂の要点

○　道徳教育は，道徳の時間を「要」として，学校の教育活動全体を通じて行う。

道徳教育は，道徳の時間だけで行うのではなく，各教科，総合的な学習の時間，特別活動等でも行う。道徳の時間は，道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によって，それらを補充，深化，統合し，道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践力を育成する。

○　活用しやすい道徳教育の全体計画，道徳の時間の年間指導計画を作成する。

各教科等，学校の教育活動全体で道徳教育を充実させるために，全体計画，年間指導計画の整備を図り，年間を通して具体的に活用しやすいものを作成する。その際，校長の方針の下に，道徳教育推進教師を中心として全教員が共通理解を図って作成する。

道徳教育の全体計画を作成するにあたっては，特に次の点に留意する。

・各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を記入する。その際には，それぞれの学校で特に重点として取り組んでいる内容から取り上げていく。
・道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等を記入する。
・道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等を記入する。
（別葉にして加える）

○　生徒の発達の段階や特性等を踏まえて指導内容の重点化を図る。

道徳教育を進めるに当たっては，中学生という発達の段階や特性等を踏まえ，道徳教育推進教師を中心に全教師の共通理解を得ながら指導内容の重点化を図ることが大切である。

どのような内容を重点的に指導するかについては，最終的には，各学校において生徒や学校の実態を踏まえ工夫するものであるが，社会的な要請や今日的課題についても考慮し，次のような配慮を行うことが求められる。

・生徒の自立心や自律性を育成する。
・自他の生命を尊重する心を育成する。
・規範意識を育てる。
・社会参画への意欲や態度を身に付けさせる。
・国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けさせる。

○　道徳の時間の指導に当たっては，次の事項に配慮する。

・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

校長や教頭などの参加による指導，他の教職員とのティーム・ティーチングなどの協力的な指導，養護教諭や栄養教諭などの協力を得た指導などを工夫して行う。また，教材や図書の準備，掲示物の充実，資料コーナーの整備を図ったり，道徳の時間に関する授業研修を実施したりするなど，道徳教育推進教師が中心となって全教職員が協力して進める。

・体験活動を生かすなどの指導の充実

職場体験活動やボランティア活動，自然体験活動などの体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話合いに生かすなどの工夫をする。これらの体験活動は事前に体験活動を行う意義を生徒に十分に理解させ，活動についてあらかじめ調べたりすることなどにより意欲をもって活動できるようにしたり，事後に感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り，まとめたり，伝え合ったりすることなどにより他者と体験を共有したり，広い知識につなげたりすることができるようにする。その際，道徳の時間で直接的な体験活動そのものを行うのではないことに留意する。

・魅力的な教材の開発や活用

道徳の時間において，生徒が道徳的価値の自覚を深めるとともに，そのことを通して人間としての生き方についての考えを一層深めることができるように，先人の伝記，自然，伝統と文化，スポーツなどを題材とし，生徒が感動を覚えるような教材の開発や活用を通して，生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行う。

・表現し考えを深める指導の工夫

自分の考えを基に，書いたり討論したりするなどの表現する機会を充実し，自分とは異なる考えに接する中で，自分の考えを深め，自らの成長を実感できるようにする。そのために，生徒が自分の意見がどのようなことを根拠にしているのか，どんな理由によるものなのか，その拠り所を明らかにするようにし，「なぜ」「どうして」と更に深く自己や他者と対話することで，自分自身を振り返り，自らの価値観を見つめ，見直せるようにする。

・情報モラルの問題に留意した指導

個人情報の保護，人権侵害，著作権等に対する対応，危険回避やネットワーク上のルール，マナーなどの情報モラルに関する指導を配慮する。その際，情報モラルに関する題材を生かしたり，情報機器のある環境を生かしたりして，ネット上の書き込みのすれ違いなど他者への思いやりや礼儀の問題及び友人関係の問題，情報を生かすときの法やきまりの遵守に伴う問題など，多岐にわたった内容を取り入れる。

4 展開例

1）主題名　共に生きる社会　4－（3）公正・公平　第１学年

2）資料名　「ゴールをめざして」（出典　文部省　中学校読み物資料とその利用「主として集団や社会とのかかわりに関すること」）

3）ねらい　だれに対しても公平に接し，差別や偏見をもたないように心がけることの大切さに気付き，よりよい社会を実現しようと努める心情を育てる。

指 指導の重点が道徳的心情･判断力･実践意欲と態度のどの側面にあるのかを明確にすることで授業展開の方向づけをする。

4）評価の観点　だれに対しても公平に接し，差別や偏見をもたないように心がけることの大切さに気付き，よりよい社会を実現しようと努めることに喜びを感じている。【道徳的心情】

評 評価の観点として授業の中で期待する生徒の姿を明らかにしておき，指導と評価の一体化を図る。

5）主題設定の理由

・ねらいとする道徳的価値について（略）
・生徒の実態について（略）
・資料について（略）

6）学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価（◇）
導入	1　高齢者福祉施設での体験学習を振り返る。	○高齢者福祉施設訪問では，どんなことに気をつけたか。 ・施設利用者の立場に立って活動すること。 ・施設利用者に喜んでもらえる活動を工夫すること。	・ねらいとする道徳的価値を自分自身の問題として受け止められるように，実際に行った体験学習について想起させる。
展開	2　資料を読む。 3「健」の気持ちについて話し合う。	○「健」が「宏典」にいらだつようになったのは，どんな気持ちからだろうか。 ・「宏典」にリレーは無理だ。 ・「宏典」は絶対に無理をしている。 ・「宏典」にけがをさせたくない。 ・無理をしないほうが「宏典」のためだ。 ○「健」の「もやもやした気持ち」とはどんな気持ちだろうか。 ・僕がまちがっているのだろうか。 ・僕はまちがってはいない。 ・「宏典」は絶対に無理をしている。 ・僕は本当に「宏典」のことを心配しているんだ。	・資料の記述にとらわれすぎないようにするため，あらすじや主人公「健」とその周囲の状況を通読後に場面絵で確認する。 ・「健」が「宏典」のことを思いやる気持ちからいらだっていることに目を向けさせる。 ・自分中心の考えから離れられない「健」の気持ちに共感させる。
終末	4　自分自身を振り返り，ワークシートに書く。	○「宏典，頑張れ。」とさけぶ「健」はどんなことに気付いたのだろうか。 ・自分の考えがまちがっていたんだ。 ・「宏典」は心から走りたいと思っていたんだ。 ・「宏典」の望むとおりにさせてあげるのが一番いいんだ。 ・「宏典」はこんなに頑張っているから，心配することはなかったんだ。 ◎無言で「宏典」の肩をたたきながら，「健」はどんなことを考えていたのだろうか。 ・「宏典」が走るのは無理だと決めつけていた自分はよくなかったな。 ・「宏典」の気持ちをわかろうとしていなかったことはよくなかったな。 ・「宏典」の気持ちを理解しようとすることが本当に「宏典」を大切にしているということになるんだな。 ・「宏典」がやる気になっていると，僕もなんだか気持ちがいいな。 ○人に対して一方的な見方をしていたことに気付いた経験はないか。今どんな気持ちがしているか。	・「健」が「宏典」の思いを理解したことに気付かせる。 ◇資料中の登場人物の行為や心の動きに共感している。（観察，発言） ・ねらいとする道徳的価値に目覚めた「健」の気持ちについての多様な考え方に触れるため，できるだけ多くの生徒が発言できるようにする。 ・一人一人がしっかり振り返って考えることができるように，書くための時間を十分に保障する。 ◇自分の生活を見つめ，差別や偏見をもたないことの大切さに気付き，相手を大切にして生きることに努めることのよさを感じている。（ワークシート，観察）
終末	5　教師の説話を聞く。		・教師の体験談を聞くことで，将来に向けた実践への意欲につながるようにする。

指 他に，アンケート調査結果等の資料の提示や写真，VTR，音楽 CD などを用いて視覚的・聴覚的に印象付けるなど多様な工夫が考えられる。

指 主題について学ぼうとする意欲を高め，ねらいとする道徳的価値にかかわる問題の発見や意識化を図る。

指 資料の内容を深く生徒に受け止めさせるために，スライドや VTR で見せたり録音による資料に構成して聞かせたりするなど，資料の特性を生かす提示を工夫することも考えられる。

指 生徒がこれまでの自分の経験やそのときの感じ方，考え方と照らし合わせながら考え，多様な感じ方や考え方が引き出されるような発問をねらいに即して十分吟味する。

指 ねらいに迫るために生徒の発言や心の動きなど学習過程の各段階で予想される生徒の様相を示す。

指 適切な助言や補助発問を行い，話合いの効果を高める。また，生徒の多様な感じ方・考え方が引き出せる学級の雰囲気をつくることが大切である。

指 ねらいや生徒の実態，資料の特質等に応じて様々な指導方法を活用することが考えられる。
例）
・ペアやグループによる話合い活動
・動作化や役割演技などの表現活動
・違いや多様さを対比的，構造的に示すなどの板書の工夫

指 書く活動を通して生徒が自分自身とじっくりと向き合い，道徳的価値についての自分の思いを深めたり，よりよく生きることについての課題を考えたりできるようにする。

指 生徒一人一人が現在の自分自身を知り，よりよく生きる上での課題を明らかにする。そのために，資料を通して理解を深めた道徳的価値について，自分自身はどうであったかという視点で振り返ることができるような学習を行う。本時は道徳的心情を育てることがねらいなので，生活経験を振り返るとともにそのときの気持ちについて考えることが必要である。

評 取り組んでいる姿勢や記述から，可能な限り生徒の心の変容をとらえるようにする。

評 話合いにおける生徒の感じ方・考え方を可能な限り観察や発言によりとらえ，指導の改善に生かすようにする。

指 互いの思いを交流し，道徳的価値に関しては多様な感じ方・考え方があること，道徳的価値は大切であることについての理解を深めるようにする。

指 体験談は，ねらいとする道徳的価値に根ざしたものか，また，生徒の発達の段階に応じたものか，十分に吟味する。

指 他に，生徒の感想を発表させる，書く活動を取り入れる，補助的な資料（名言，ことわざ，詩，生徒作文，写真，音楽 CD 等）を提示するなどして生徒の考えを整理することも考えられる。

7）評価（期待する学びの姿）　差別や偏見をもたないことの大切さに気付いた自分の経験を想起して，考えたりワークシートに書いたりしている。

評 〈道徳の時間の評価〉
道徳の時間の評価は，「道徳的価値の自覚及び人間としての生き方についての考えを深めることができたかどうか」を発言や観察，ワークシートの記述等様々な面からとらえ，評価することになる。その評価をもとに，教師の指導は適切であったかを見直し，授業改善につなげることが大切である。
例）・扱った資料は，道徳的価値を自分とのかかわりで考えることのできる資料であったか。
・中心場面は，ねらいとする道徳的価値についての自覚を深める場面として適切であったか。
・ワークシートの吹き出しに書く活動は，自分自身がねらいとする道徳的価値に対してどうであったかを振り返るために適切であったか。など
道徳の時間において道徳的実践力を育成するためには，このように評価と評価に基づく授業改善を積み上げていくことが大切である。また，授業中だけでなく，授業終了時の生徒の変化等を評価したり一定期間にわたる変化の様子等を見届けたりして，個に応じた指導や学級全体の指導に生かすようにする。

総合的な学習の時間

1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。

2 評価の観点及びその趣旨

総合的な学習の時間の評価においても，観点別の学習状況評価を基本とする。評価の観点は，各学校において定めた目標，内容，資質，能力及び態度を踏まえて設定する。

その際に，次の①～③の例を参考にしながら，それぞれを組み合わせたり具体化したりして，各学校に応じた観点を設定する。

なお，①～③の例の特徴や配慮事項については，「総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）」（国立教育政策研究所）p.3 ～ 5 を参考にする。

○　各学校が設定する評価の観点例

①学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標に基づいた観点例

「よりよく問題を解決する資質や能力」
「学び方やものの考え方」
「主体的，創造的，協同的に取り組む態度」
「自己の生き方」　等

②学習指導要領に示された「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」などの視点を踏まえて設定した，資質や能力及び態度に基づいた観点例

〈例 1〉	〈例 2〉
「学習方法」 「自分自身」 「他者や社会とのかかわり」等	「課題設定の力」（学習方法） 「情報収集の力」（学習方法） 「将来展望の力」（自分自身） 「社会参画の力」（他者や社会とのかかわり）等

これらをさらに具体化して

③各教科の評価の観点との関連を明確にした観点例

学習にかかわる「関心・意欲・態度」
「思考・判断・表現」
「技能」
「知識・理解」等

3 改訂のポイント

○　問題解決的な学習が発展的に繰り返されていくよう，「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という一連のプロセスをもった探究的な学習となることを目指す。
○　問題の解決や探究活動の過程において，他者と協同して問題を解決しようとする学習活動を行う。
○　問題の解決や探究活動の過程に，人や社会，自然にかかわる直接的な体験活動を適切に位置付ける。
○　学習の過程において，言語により分析し，まとめたり表現したりするなどの言語活動を適切に位置付ける。
○　小中学校間の連携を密接に行い，学校段階間で取組の重複がないように配慮する。

4 評価規準と展開例

全体計画の作成については，次を参照する。
・「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」（文部科学省）　p.59 ～ 61
・「今，求められる力を高める総合的な学習の展開（中学校編）」（文部科学省）p.64 ～ 75

1）単元名　第 2 学年

職場体験学習　～働くということを体験して調べてみよう～

2）単元の概要

全体計画の「目標」「内容」「育てようとする資質・能力及び態度」を踏まえ，中核となる学習活動を基に構成する。

①　単元のねらい

地域で働く人々の仕事に対する思いや願いについて調べてまとめたり，職場体験活動等を通して生じた関心や疑問を探究したりすることで，働くことの意義や自分に対する理解を深め，自分の生き方について考える。

②　単元で育てようとする資質や能力及び態度

全体計画の「育てようとする資質や能力及び態度」の中で，本単元を通して育てようとする項目を観点ごとに記述する。

【学習方法に関すること】
ア 体験活動等を通して課題意識をもち，適切に課題を設定する。
イ 情報収集したことがらを整理したり分析したりして，自分の考えをもつ。
【自分自身に関すること】
ウ 自分の生き方について目標をもつ。
【他者や社会とのかかわりに関すること】
エ 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する。

③　単元で学ぶ内容

全体計画の「内容」から記述する。

ア　地域で働く人の存在とその思いや願い，働くことの意味
イ　自分を理解したり，夢や希望を実現したりするための多様な取組や将来設計

3）単元の評価規準

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
①「働くこと」についての自分の考えと地域の人の講話から得た情報を比べ，ズレや疑問を基に課題を設定している。【②ア，③ア】 ②　職場体験の事前準備や職場体験活動をもとに「働くこと」について自分の考えを整理している。【②イ，③イ】	①　自分の夢や希望を実現するための取組について考えたり，将来の生き方について目標を立てたりしている。【②ウ，③イ】	①　自分の考えをまとめるために，地域の方や友だちの様々な考えや意見を聞き，受け入れている。【②エ，③ア・イ】

※　評価規準については，「単元で育てようとする資質，能力，態度」と「単元で学ぶ内容」の両面から設定する必要がある。各観点に即して，②のア～エ及び③のア，イを必要に応じて組み合わせて設定する。

4）単元計画と評価計画　（全 45 時間）

学習活動	時数	教師の指導・支援	評価 学習方法	評価 自分自身	評価 他者社会	評価 方法・資料	他教科等との関連
【働くってなんだろうⅠ】 ○「働くこと」についての自分の考えと地域の人の講話から得た情報を比べ，課題を設定する。	10						
・「働くこと」について，自分の考えを明らかにする。	(1)	・ブレイン・ストーミングにより自分の考えを表出させる。					
・ゲストティーチャーから職業についての講話を聞く。	(1)	・複数のゲストティーチャーによるポスターセッション形式で実施する。			①	振り返りシート	
・図書館資料等を活用し，興味のある職業や働くことについて調べる。	(2)	・図書館やインターネットを活用し，多様な情報の収集・整理・分析の仕方を指導する。					
・聞いたり調べたりしたことから疑問を拾い出して，それを基に自分の課題を設定する。	(1)	・作成した情報カードを活用させる。	①			課題設定シート	
○自己の課題解決に向けて目標を立てたりしながら，事前準備を行う。 ・「夢発見カード」の作成を通して，職場体験に対する目標をもつ。（本時 1 ／ 2）	(2)	・課題設定シートをもとにして，希望する職種を選択させる。 ・「夢発見カード」を作成させ，自分の夢や目標意識を明確にさせる。		①		ワークシート「夢発見カード」	
・担任との面談を通して体験先を決定する。	課外	・模擬採用面接として緊張感をもたせる場づくりをする。 ・「夢発見カード」を用いて生徒が自分のねらいや考えを明確に話せるよう，事前の準備をしっかり行わせる。					
・職場でのマナーやふるまいについて学ぶ。	(2)	・外部講師の講話により電話の対応や礼儀等，ふるまいの意識を高める。					
・電話等で事前打ち合わせを行う。	(1)	・体験に必要な準備物や時間等を確認させる。					学活（職業）
【働くってなんだろうⅡ】 ○職場体験を行い，働く喜びや苦労を知り，まとめたものをポスターセッションにより発表する。	31						
・職場体験を行う。	(25)				①	行動観察	
・職場体験の記録をまとめる。	(1)	・保護者や事業所からの評価を併せて行わせる。					
・自己設定した課題を踏まえて，体験したことを分かりやすくまとめる。	(3)	・KJ 法を用いてグループごとに学んだことをもとにして，働くことについての考えを整理させる。	②		①	行動観察 作成物	国語科「話すこと・聞くこと」
・発表会を行う。	(2)	・グループごとのポスターセッションとして聞いてもらい，意見や感想を聞かせる。					道徳 1-(5) 2-(1)
【働くって何だろうⅢ】 ○これからの自分を考える。	4						
・ポスターセッションのまとめをする。	(1)						
・職場体験先に礼状を書く。	(2)	・これまでのワークシート等を基に，働くことについて自分の考えをまとめ，礼状として言語化させる。	②			礼状	
・学習を振り返りこれからの自分を考える。	(1)	・これからの学習や生活等に向け，具体的な目標等を考えさせる。		①		振り返りシート	道徳 4-(5)

指 課題を設定する際に，足りない情報があればメールや電話等で情報を収集させる。

指 情報カードの作成の仕方と整理の仕方を指導する。

指 自己の夢や希望だけでなく，職場体験のねらいや自己の課題を基に，体験を通して身に付けたいことや学びたいことを明記できるようにカードを工夫する。

指 事前から事後までの一連の中で，体験先や保護者と連絡を取り合い，情報を共有する。

指 体験先を訪問し，生徒の変化を観察し，見守りや励ましを行う。

指 他学年や保護者・事業所の方々等を招くことを想定した計画にする。

評 評価を学習活動の終末だけでなく，事前や途中に適切に位置付けることが大切である。

5）本時の活動

① 本時のねらい　（第 1 次　6 時／ 10 時）

・自分の夢や希望と課題を考えながら，職場体験活動で追究する取組を考える。

【自分自身に関すること】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価（評価方法）
1. 前時までの活動を振り返り，職場体験活動への意欲をもつ。 ・本時の活動を確認する。	○課題設定シート等から，前時までの活動を振り返ることができるようにする。（ポートフォリオ：本誌 p.73 を参照）	指「ワークシート」は，前時までの記入事項に加え，本時で記入する事項（自分の夢や希望，活動のねらい等）を追加できるように工夫したデザインにしておく。
職場体験活動の見通しをもとう。		
2. 職場体験活動を通しての取組の見通しを明らかにする。 ・職場体験活動で学習したいことや解決したいことを整理する。 ・職業調べ，自分の興味や課題を基に，希望する職種を選択する。	○課題設定シートを用いて自分の夢や希望と関連させ，何のために，何を学びたいか，自分の目的や課題をはっきりさせる。 ○学級活動「働く意義を考える」の学習内容を振り返らせ，自分の考えを整理する上での参考にさせる。 ○体験できる職種（受け入れ事業所等）一覧を示し，選択の参考にさせる。	**☆自己の夢や希望，課題を見つめ，職場体験活動で追究する取組を考えている。**（ワークシート）
3. 職場体験で行いたい取組等について紹介し合う。 ・ワークシートを用い，職場体験活動を通して学びたいことなどを互いに紹介する。	○同じ職種を選択した生徒でグループを構成し，紹介を行わせる。	
4. 次時の学習について知る。	○ワークシートを基に「夢発見カード」を作成し，担任との面談への準備を行うことを伝える。	

指 カードやクリップに課題を取り出して序列化したり，ウェビングを活用したりして可視化を図り，整理に役立てる。

指 考えを伝え合う指導をする際は，①いろいろな考えや意見があることに気付かせること②それらの考えの根拠等の違いに気付かせること③それぞれの考えの異同を整理して，更に自分の考えを発展させることなどに留意する。

評 自分で調べたことや講話等を参考にして考えているか。

③ 本時の評価（おおむね満足と判断される生徒の具体例）

○自分の夢と課題を考えながら，職場体験で学びたいことや目標などをワークシートに整理している。

【自分自身に関すること】

特別活動

1 目標

望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。

各活動・学校行事の目標

学級活動	生徒会活動	学校行事
学級活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団の一員として学級や学校おけるよりよい生活づくりに参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てる。	生徒会活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度を育てる。	学校行事を通して，望ましい人間関係を形成し，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
趣旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち，望ましい人間関係を築きながら，積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し，望ましい人間関係を築きながら，集団活動や自己の生活の充実と向上について考え，判断し，自己を生かして実践している。	集団生活の意義，よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめる話合い活動の仕方，自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

3 改訂のポイント

○　望ましい集団生活や体験的な活動を通して，豊かな学校生活を築くとともに，よりよい人間関係を築く力，社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。

○　道徳的実践の指導の充実を図る観点から目標や内容を見直す。

○　特別活動の目標を受けて，各活動・学校行事を通して育てたい態度や能力を各内容の目標として新たに示す。

＜学級活動＞

○　よりよい人間関係を築く力，協力して学級や学校の生活の充実・向上を図るとともに生徒が当面する課題に主体的にかかわる態度の育成を重視する。

○　活動内容については，①学級や学校の生活づくり，②適応と成長及び健康安全，③学業と進路の３つに整理するとともに，集団の適応にかかわる問題や思春期の心の問題，社会的な自立を目指す教育活動を充実する観点から，項目の改善を図る。

＜生徒会活動＞

○　よりよい人間関係を築く力，社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。

○　内容については，①生徒会の計画や運営，②異年齢集団による交流，③生徒の諸活動についての連絡調整，④学校行事への協力，⑤ボランティア活動などの社会参加の５つを示し，それぞれの活動の内容を明確にするとともに，生徒の自発的，自治的な活動の充実を図る。

＜学校行事＞

○　よりよい人間関係を築く力，公共の精神を養うこと，社会性の育成を図ることを重視する。

○　内容については，社会の一員としての自覚と責任感を高め社会的自立を進める観点から，「勤労生産･奉仕的行事」について職場体験を重視するとともに，奉仕体験の意義を明確に示す。また，「学芸的行事」を改め，「文化的行事」とする。

☆　言語活動の充実を図る。

①学校や学級における生活上の問題を，話合いを通して解決する活動を一層重視する。

②体験活動を通して感じたり，気付いたりしたことを振り返り，言葉でまとめたり，発表し合ったりする活動を重視する。

☆　指導計画の作成に当たっては，各教科，道徳及び総合的な学習の時間などの指導と関連を図る。また，中学校入学当初においては，個々の生徒が学校生活に適応するとともに，希望と目標をもって生活できるようにガイダンス機能の充実を図る。

4 評価規準と展開例

1）議題　第２学年「校内合唱コンクールを成功させよう」
学級活動（1）ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決

2）生徒の実態と議題選定の理由　（略）

3）指導のねらい

校内合唱コンクールに向けた取組の中で，学級集団を高めるための方法について合意を形成し，それに基づいた実践を通して，学級への所属感や連帯感を深める。

4）評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち，他の生徒と協力して，自主的，自立的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し，他の生徒の意見を尊重しながら，集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え，判断し，信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や，学級や学校の生活づくりへの参画の仕方，学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

5）指導計画と評価計画

指 事前・事後の活動も教師の適切な指導のもとに行う必要がある。

	日　時	活動内容	対　象	目指す生徒の姿と評価方法（★目指す計画委員の姿）
事前の活動	９月１日まで	・合唱コンクールの取組についての意見を把握するためのアンケート調査項目を作成する。	計画委員	【関心・意欲・態度】 ★話合い活動が深まるように自主的，自立的に準備を進めようとしている。〔観察〕
	９月２日終礼	・アンケート調査を行う。	全　員	【関心・意欲・態度】 ・合唱コンクールに関わって，学級生活における様々な問題に関心をもち，改善の必要性を感じている。〔アンケート〕

	9月2日 放課後	・アンケートの集計結果を基に課題を分析し，議題を決定する。 ・提案理由を検討するとともに話合いの柱を決め，「話合い計画カード」に記入し，本時の活動計画を作成する。	計画委員	【関心・意欲・態度】 ★話合い活動が深まるように自主的，自立的に準備を進めようとしている。〔観察〕
	9月6日	・活動テーマ（議題）に対する自分の意見を，学級活動カードに記入する。	全　員	【関心・意欲・態度】 ・活動テーマ（議題）に関心をもち，自主的に自己の考えをまとめようとしている。〔学級活動カード〕 【知識・理解】 ・話合いの内容，学級活動カードの書き方を理解している。〔学級活動カード〕
話合い	9月7日 5校時 （本時）	・校内合唱コンクールを成功させるための話合いを行う。	全　員	【思考・判断・実践】 ・互いのよさを生かし合いながら，最高の合唱にするための目標とその具体策を考え，理由を示し意見を述べている。〔観察〕〔学級活動カード〕 【関心・意欲・態度】 ・話合い活動を通して，校内合唱コンクールに向けて進んで取り組もうとしている。〔観察〕〔学級活動カード〕 【思考・判断・実践】 ★「話合い計画カード」にしたがって意見をまとめながら，話し合いを進めている。（計画委員） 〔観察〕〔学級活動カード〕
事後の活動	9月7日 放課後	・話合い活動における決定事項を教室に掲示する。	計画委員	
	9月7日 ～ 30日	・決定事項に基づいて活動する。	全　員	【思考・判断・実践】 ・目標の実現に向け，互いに信頼し支え合って決定事項を実践している。〔観察〕
	10月1日	○校内合唱コンクール ・これまでの話合い活動や放課後等の活動の成果が実るよう，目標の実現に向けて歌う。	全　員	【関心・意欲・態度】 ・みんなで協力し，進んで合唱コンクールに取り組もうとしている。〔観察〕 【思考・判断・実践】 ・目標の実現に向け，互いに信頼し支え合いながら実践している。〔観察〕
		・これまでの取組や本日の校内合唱コンクールを振り返り，互いのよさを称賛する。 ・一連の活動を通して，気付いたことや学んだことを振り返りカードにまとめるとともに，今後の学校生活の在り方を考える。	全　員	【知識・理解】 ・校内合唱コンクールの成功に向けて学級で取り組むことの意義について理解している。〔振り返りカード〕

指 話合いの計画は，1年生の頃から計画的・系統的に指導し，できるだけ生徒が自主的に立てられるようにする。

指 学級活動カード等を利用し，教師が事前に生徒の考えを把握し，話合いのスムーズな運営を考えたり，生徒の意欲を高めるような手だてを工夫したりすることにつなげる。

評 毎時間3観点の評価をするのではなく，事前の活動・本時・事後の活動など一連の活動の中で評価する。

指 終礼の時間などを活用して，これまでの活動全体を振り返る機会を設ける。

指 特別活動においては，生徒に自信をもたせたり意欲を高めたりするために，生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが重要である。

6）本時の指導と生徒の活動

① 本時の活動テーマ 「最高の合唱をするための方法を考えよう」

② 生徒の活動計画 （略）

③ 本時のねらい

・話合い活動を通して，校内合唱コンクールに向けて進んで取り組むことができる。【関心･意欲･態度】

・最高の合唱にするための目標やその具体策に関する学級集団の合意形成に向け，互いの考えを生かし合いながら話合い活動を深めることができる。【思考・判断・実践】

・「話合い計画カード」にしたがって意見をまとめながら,話合いを進めることができる。(計画委員)【思考･判断･実践】

④ 学習活動

活動内容	教師の支援	目指す生徒の姿と評価方法
1 開会の言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の発表・確認 4 提案理由の説明 5 教師の話	・計画委員会での検討の経緯について説明するよう助言する。 ・アンケート結果や提案理由に関する補足をしながら，学級への所属感や連帯感が深められるような話合いになるよう助言する。	
6 話合い （1）合唱コンクールの目標について （2）目標実現のための具体策について （3）学級として必ず守る決まりについて	・事前に、目標とその達成のための具体策について意見をまとめさせておく ・過去の行事の経験などを踏まえ，様々な角度から考えるよう助言する。 ・提案理由を踏まえて考えるよう助言する。	【思考・判断・実践】 ・互いのよさを生かし合いながら，最高の合唱にするための目標とその具体策を考え，理由を示して意見を述べている。 〔観察〕〔学級活動カード〕 【関心・意欲・態度】 ・話合い活動を通して，校内合唱コンクールに向けて進んで取り組もうとしている。 〔観察〕〔学級活動カード〕 【思考・判断・実践】 ★「話合い計画カード」にしたがって意見をまとめながら，話し合いを進めている。（計画委員） 〔観察〕〔学級活動カード〕
7 決定事項の確認 8 自己評価･感想の記入 9 教師の話 10 閉会の言葉	・本時の話合い活動を通して気付いたことや考えたことなどを，学級活動カードに記入するよう助言する。 ・話合いの流れを方向付けた発言や計画委員の活動などを称賛し，実践に向けての意欲を高める。	

指 なぜ，話し合うのか，問題の所在が明確になるように，検討の経緯を含めて提案理由を詳しく説明できるよう指導しておくことが大切である。

指 複数の意見のよさを認め統合する等，折り合いをつけた集団決定を心がけさせることで人間関係を形成する力を育成するとともに，言語活動の充実を図る。

指 意見が話合いの中心からそれた場合等は，提案理由に立ち返って話合いをするよう助言する。

評 評価方法は観察が中心となることが多いが，学級活動カードや振り返りカードなど多様な方法と組み合わせることも考えられる。

評 目指す生徒の姿として，評価規準をもとに，活動場面における「十分満足できる活動の状況」を，具体的な生徒の姿として示し，評価する。特別活動の評価は2段階程度の幅の広いものである。

指 本時のねらいを踏まえて，振り返りの視点を示す。

指 計画委員の事前の活動を含めてねぎらうなど，生徒の主体的・意欲的な活動につながるような肯定的な評価言を大切にする。

⑤ 本時の評価（十分満足できると判断される生徒の具体例）

・話合い活動を通して，校内合唱コンクールに向けて進んで取り組もうとしている。

・互いのよさを生かし合いながら，最高の合唱にするための目標とその具体策を考え，理由を示して意見を述べている。

・「話合い計画カード」にしたがって意見をまとめながら，話合いを進めている。（計画委員）

※ 引用：「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校 特別活動）」（国立教育政策研究所）

9 指導要録の改善

1）評定

○　簡潔で分かりやすい情報を提供するものとして，生徒の教科の学習状況を総括的に評価するものです。
○　教師同士の情報共有や保護者等への説明のために有効です。

2）総合的な学習の時間

○　評価の観点は，国が示した 3 種類の例を参考にして，各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて定めます。
○　各学校において，この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入し，生徒にどのような力が身に付いたかを文章の記述により評価を行います。

3）特別活動

○　新学習指導要領では，各活動・学校行事に新たに目標を規定しています。このことを踏まえ，各学校において定めた特別活動全体に係る評価の観点により評価を行います。
○　各学校は，各活動・学校行事ごとに，評価の観点に照らして「十分満足できる」活動の状況にあると判断される場合に，○印を記入します。

4）行動の記録

○　学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について評価を行います。
○　設置者は，学習指導要領等の総則，道徳の目標や内容，内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえ示している改善通知の項目を参考にして，項目を適切に設定します。
○　各学校において，自らの教育目標に沿って項目を追加することができます。

5）総合所見及び指導上参考となる諸事項

○　生徒の成長の状況を総合的にとらえ，
　①　各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見
　②　特別活動に関する事実及び所見
　③　行動に関する所見
　④　進路指導に関する事項
　⑤　生徒の特徴・特技，部活動，社会奉仕体験活動等の指導上参考となる諸事項
　⑥　生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見
　等を記述します。
○　個人内評価（観点別学習状況の評価や評定では十分示しきれない一人一人の良い点や可能性などを記入）を適切に記述します。

10 効果的・効率的な学習評価

多様な学習評価の方法を取り入れたり，組み合わせたりするなど，評価を学習活動の終末だけでなく，事前や途中に位置付けて実施し，指導を充実させていくこと，また，学習過程全般を通して生徒の学習状況を把握し，指導に役立てることが大切です。

効果的・効率的な学習評価には以下のような例があります。

1）ポートフォリオによる評価

学習活動の過程や成果などの記録や作品を生徒が主体的・計画的に集積したポートフォリオによる評価方法のことです。活動計画表や自己評価の記録，取材メモや感想，教師や友達，保護者や地域の人のコメント，写真や報告書などを資料として集積します。

ポートフォリオによる評価を活用すれば

・継続的に資料をファイルに蓄積することから，問題解決や探究の過程を詳しく把握することができます。
・振り返りの機会を設ければ，生徒が思いや考えを整理したり，解決の見通しをもったりすることができます。
・保護者等への説明にも活用できます。

留意点として

ただの集積物にならないよう，資料の並べ替えや取捨選択などをして整理します。自己の学習を見通し，振り返るための活用の仕方を指導することにもつながります。

2）パフォーマンス評価

単に知識を暗記・再生するのではなく，知識を文脈において活用できる力が求められるというような，目標のとらえ直しが根底にある評価の考え方です。新しく示された観点である「思考・判断・表現」を評価する際の一つの評価方法で，一定の課題の中で身に付けた力を複合的に活用することを通して，その力を評価する方法です。

パフォーマンス評価を活用すれば

・ウェビング，成果をまとめたレポートやポスター，発表やインタービューなど活用する力を総合的に見取ることができます。
・生徒が自分で導き出した考え方，作り出した作品や解決の姿などから，個性や独創性を評価し，認めることができます。

留意点として

身に付けた力を活用して学習活動に取り組む生徒の姿について，おおよそ満足できる状況を具体的にイメージしておく必要があります。

11 参考資料ホームページアドレス

「学習指導要領」「言語活動の充実」「学習評価」等関係ホームページアドレス

文部科学省

○　中学校学習指導要領解説
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chukaisetsu/index.htm

○　児童生徒の学習評価の在り方（報告）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm

○　小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm

●　【中学校版】言語活動の充実に関する指導事例集
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306108.htm

●　中学校キャリア教育の手引き
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1306815.htm

●　今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300534.htm

●　「生きる力」パンフレット
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/1297332.htm

●　「生きる力」リーフレット（簡略版）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/1304395.htm

●　「中学生熟議」パンフレット
http://jukugi.mext.go.jp/

国立教育政策研究所　http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

●　評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）

●　総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）

島根県教育委員会

●　小学校・中学校　教育課程の編成・実施の手引
http://www.pref.shimane.lg.jp/gimukyoiku/index.data/Q_A.pdf

●　学習評価を生かした授業改善，授業づくりのためのハンドブック【小学校】
http://www.pref.shimane.lg.jp/gimukyoiku/index.data/handbook_syou.pdf

●　各教科等の指導の重点
島根県教育用ポータルサイト → 島根県教職員用メニュー → 各教科等の指導の重点

※●については，各学校へ配布済。

本ハンドブックの作成にあたっては，

『しまね教育ビジョン 21 ～ふるさとを愛し，未来を切り拓く子どもを育む～』（平成 20 年 3 月 26 日改訂）をはじめとする島根県教育委員会が発行した刊行物及びを以下の資料を参考に作成しています。

《参考にした資料》

※　児童生徒の学習評価の在り方について（報告）
（平成 22 年 3 月 24 日　中央教育審議会　初等中等教育分科会　教育課程部会）

※　小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について　（平成 22 年 5 月 11 日付け文部科学省初等中等教育局長通知）

※　中学校学習指導要領　（平成 20 年 3 月告示　文部科学省）

※　中学校学習指導要領解説　各教科等編　（平成 20 年 9 月　文部科学省）

※　【中学校版】言語活動の充実に関する指導事例集　（平成 23 年 5 月　文部科学省）

※　評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料　各教科等編
（平成 23 年 7 月　国立教育政策研究所）

学習評価を生かした
授業改善，授業づくりのための
ハンドブック

［ **中学校** ］

平成 24 年 3 月

発行　島根県教育庁義務教育課
島根県松江市殿町 1 番地

印刷・製本　株式会社 島根県農協印刷